≪2022 年 5 月（通算 307 回）公開サロン報告≫

＊＊

ユースリーグのこれからを考える②

－U-18 フットサルリーグを中心に－

中塚義実（NPO サロン 2002 理事長）、本多克己（NPO サロン 2002 副理事長）
ほか全国各地で U-18 フットサルリーグに携わる皆さん

＊＊

【日　時】2022 年 5 月 10 日（火）19：30～21：30（終了後はオンライン懇親会）
【会　場】オンライン（Zoom）
【テーマ】ユースリーグのこれからを考える②　－U-18 フットサルリーグを中心に
【演　者】中塚義実（NPO サロン 2002 理事長／筑波大学附属高校／TFA ﾌｯﾄｻﾙ委員会第 2 種部会長）
本多克己（NPO サロン 2002 副理事長／㈱シックス／神戸アスリートタウンクラブ理事長）
ほか全国各地で U-18 フットサルリーグに携わる皆さん
【参加者（サロン 2002 ファミリー）10 名】★は NPO 会員
磯和明（国立市で 4 種サッカーコーチ＆大人のフットサルチーム）、大河原誠二（桐一族／筑波大附サッカー部 OB）、★春日大樹（NPO サロン 2002 理事／筑波大学蹴球部 OB）、鈴木崇正、橘和徳（富山県立富山中部高校／富山県フットサル連盟 U-18 担当）、★中塚義実（筑波大学附属高校／NPO サロン 2002 理事長）、本郷由希（会社員）、★本多克己（NPO サロン 2002 副理事長／㈱シックス）、守屋佐栄（スフィーダ世田谷サポーター）、★守屋俊秀（シニアプレーヤー／東京都 2 級審判員）
【参加者（サロン 2002 ファミリー以外）12 名】
荒川浩幸（(一社)北海道フットサル連盟専務理事）、有吉朋喜（東京都フットサル連盟 U-18 統括理事／TFA フットサル委員会第 2 種部会）、池田義人（福島県フットサル委員長／福島県フットサル連盟理事長／東北フットサル連盟理事長）、犬塚知良（静岡県フットサル連盟ユース担当）、牛山優（桐生第一高校）、大友洋介（武相高校フットサル部／神奈川県フットサル連盟理事長）、菊池宏志（宮城県聖和学園高校）、小曽根潮（立命館宇治中高）、硲田直文（兵庫県フットサル連盟／神戸国際大学附属高校フットサル部）、高原渉（宝塚 FC）、鶴田文彦（エンフレンテ熊本）、本山準一（北海道フットサル連盟）
【報告書作成者】守屋俊秀　ほか

【目次】
はじめに
Ⅰ．DUO リーグの理念とあゆみ
Ⅱ．DUO リーグのトロフィーがない！プロジェクト
Ⅲ．DUO リーグのこれから
おわりに

【キーワード】
フットサル、ユースリーグ、U-18、部活動改革、リーグチャンピオンズカップ、遊び心、中塚義実、本多克己

はじめに（中塚義実）

7 時半になりました。皆さんこんばんは。

はじめに主催団体 NPO サロン 2002 の紹介をします。“志”は「スポーツを通しての“ゆたかなくらしづくり”」で、1997 年度よりサロン 2002 を名乗っています。主な活動は、毎月開かれる「月例サロン」。公開型と非公開型があり、今日は公開型です。公開型の究極のバージョンが「公開シンポジウム」で年 2 回予定しています。今年は 11～12 月にワールドカップがありますが、その間隙を縫って千曲市でできないか模索中です。その千曲市で、年明けの 1 月 7～8 の土日に開かれるのが第 7 回 U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップです。今日のテーマです。

今年度の月例サロンや公開シンポジウムでは、「ユースリーグ」や「スポーツとアート」をメインに取り上げることにしています。前回は、ユースサッカーリーグのパイオニアである「DUO リーグ」を取り上げました。初代チェアマンは私です。1996 年にはじめたころからいまにいたるまでを振り返り、いまでは JFA の傘下で大きく育ってきたユースサッカーリーグのあゆみを振り返りました。しかしながら、今日の話と重なってきますが、やればやるほど、きちんと整備すればするほど、最も大切な“遊び心”が失われているのを感じます。そこを何とかしようと「トロフィーがない！プロジェクト」に取り組んだことを取り上げました。サロン 2002 のホームページで報告書が公開されています。

https://www.salon2002.net/src/pdf/monthly_report/2022/2022-4.pdf

今日は通算 307 回目。「ユースリーグのこれからを考える②－U-18 フットサルリーグを中心に」ということで進めていきたいと思います。進行案は次のとおりです。

19：30～19：40　趣旨説明・参加者紹介
19：40～20：30　＜前半＞プレゼンテーション
１）育ててほしい U-18 フットサルリーグ－サロン 2002 からのメッセージ（中塚義実）
２）U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップの現状と課題（本多克己）
　－コロナ禍での大会運営と動画配信の取り組み
　－各地域リーグの 2021 年度実施状況など
20：30～21：30　＜後半＞ディスカッション
１）2021 年度の各リーグの状況と 2022 年度の見通し（各リーグ関係者）
２）U-18 フットサルの今後
※終了後、任意参加のオンライン懇親会

参加者紹介についてはチャット欄にそれぞれ書き込む形でお願いします。報告書に載せたいので、お名前と所属、リーグ関係者はどちらのリーグなのかもご記入ください。肩書きや名前が公開されるのは困るという方は、その旨お書きください。

前半はこちらで用意したお話をさせていただきます。その話も二本立てで、まず私の方から「メッセージ」です。前回の内容とも重なりますが、そもそもリーグ戦とはどういうものなのかということです。ユースサッカーリーグの事例と、東京都における U-18 フットサルの事例をご紹介します。各地の取り組みのヒントになると思います。次に本多さんから、私たちが主催する U-18 フッサルリーグチャンピオンズカップのことを、昨年度の本大会と、各地域で行われているリーグの状況について、こちらで把握しているところを紹介します。

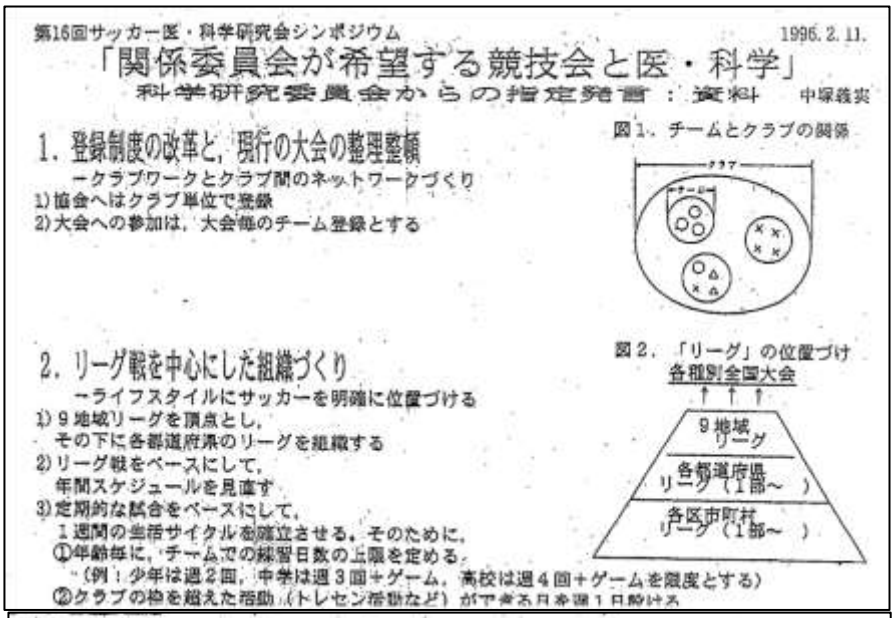
後半のディスカッションでは、皆さんから、各リーグの状況や、ご意見ご質問をたくさんいただきたいと思っています。

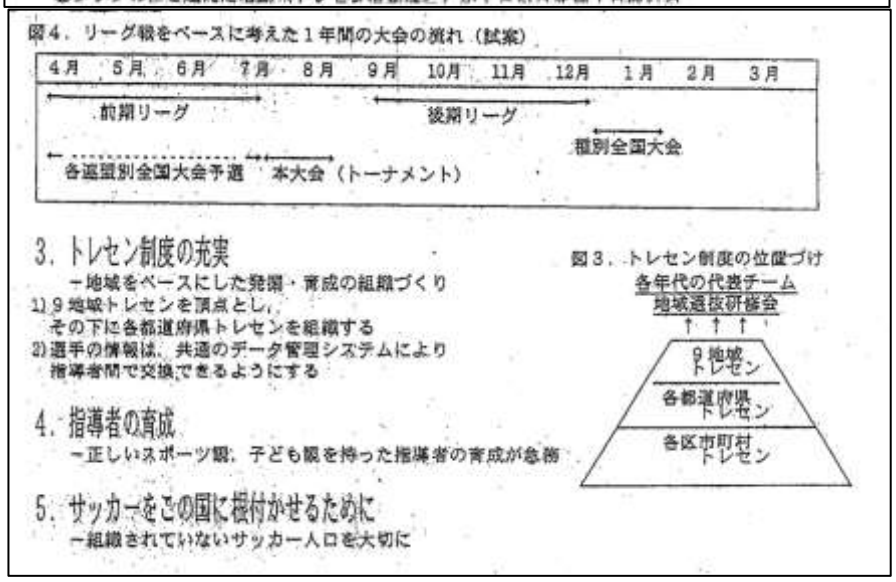
Ⅰ．育ててほしい U-18 ﾌｯﾄｻﾙﾘｰｸﾞ－サロン 2002 からのﾒｯｾｰｼﾞ（中塚義実）

１．ユースサッカーリーグの事例より

１）リーグ戦がクラブを育てる

皆さんご存じでしょうが、ユース年代のリーグ戦は、サッカー界が他のスポーツに先駆けて展開しています。私自身、このムーブメントを牽引してきた者として、はじめたころの様子などをお伝えしておきたいと思います。





資料右上の日付は 1996 年 2 月 11 日です。当時、日本サッカー協会に科学研究委員会があり、スポーツ医学委員会との共催でサッカー医・科学研究会が行われていました。サッカーの研究者やドクター、指導者が集まって情報交換する場で、いまの日本フットボール学会につながります。この時のシンポジウムのテーマは「関係委員会が希望する競技会と医・科学」でした。私は登壇者ではありませんが、指定発言者として 10 分間、当時考えていたことを整理して話す機会を得ることができました。

1996 年がどのような時期だったかというと、J リーグが始まり数年が経過したころです。育成年代のサッカーの場として、学校運動部だけでなく J リーグの下部組織が新たに生まれました。それ以前から神戸 FC や枚方 FC のような地域クラブもありましたが、J クラブがユースカテゴリーを持つことによって、多くの方が地域クラブを認識するようになった時期と言えるでしょう。

フットサルとの関係では、1994 年度から各都道府県にフットサル担当者を置くようになり、フットサルというスポーツが公的に認知されるようになりました。以前からミニサッカーやサロンフットボールが行われていましたが、それを引き継ぐような形で、FIFA を頂点とするサッカーファミリーの中にフットサルが入ってきたということです。私は初年度から東京都サッカー協会フットサル委員を務めています。

私自身の問題意識は、ユース年代のスポーツの仕組みの見直しにあります。この資料でも、最初に示しているのは「クラブワークとクラブ間のネットワークづくり」です。そのための登録制度の改革

を訴えています。日本の競技団体は「大会」ありきでスタートするので、大会に出場する「チーム」が前面に出てくる傾向があります。だから中学生だったら中学卒業、高校生だったら高校卒業というタイミングで「チーム」を追い出されてしまうわけです。すると多世代型の「クラブ」がそこには育ちません。こういう仕組みを見直さなアカンというのが、まず考えたことです。

残念ながら、このことはいまだに実現していません。年度ごとに、チーム単位で登録するシステムのままです。もっとも、クラブ申請しておけば、種別を越えて選手が行き来できるので、部分的には実現したと言えるかもしれません。しかし、もっと根本的な概念から整理すべきであるというのが最初です。

その上で、それを実現するためには、リーグ戦を中心にした組織作りが不可欠だということが、次に述べていることです。9 地域リーグを頂点とし、年間スケジュールを見直す。定期的な試合をベースにして一週間のサイクルを見直す。こういうことを構想していました。

ざっくり言うと、学校の 1 学期と 2 学期にリーグ戦があって、それが中学生、高校生のサッカーライフのベースになっている仕組みです。ノックアウト方式の大会を否定するわけではありません。それはそれであって構いませんが、ベースとなるのはリーグ戦です。リーグ期間がシーズンです。1～3 月はオフシーズン～プレーシーズン。このような年間スケジュールを組み立てていく必要があるということを提案しました。

右の表はのちに整理したものですが、カップ戦は負ければ終わりのノックアウト方式です。短期間で、シーズン中の単発イベントとして開かれます。あくまでも非日常的な行事で、主催者が会場や審判を確保してあげる。勝ったらこの日のこの会場と、ちゃんと押さえてあげます。試合をするには移動を伴います。

リーグ戦とカップ戦の違い

カップ戦	リーグ戦
ノックアウト方式 （負ければ終わり）	総当り方式 （負けても次がある）
短期間	長期間
シーズン中の単発イベント	シーズンそのものを形成
非日常的な行事	日常生活の一部
移動をともなう	生活圏で行なわれる
主催者が運営	当事者による自主運営 （Home & Away）

リーグ戦は、負けても次があります。長期にわたって行われるもので、リーグ期間がシーズンになります。日常生活の一部で、生活圏で行われるものです。中学生は、自転車で行ける範囲が妥当でしょう。高校生だともう少し広い範囲を移動してもかまいませんが、高校生が東日本や西日本というエリアを行き来する「プレミアリーグ」のような発想は私のなかにはありませんでした。そこまでする必要があるのかなと、いまだに疑問が残ります。当事者による自主運営が基本であり、リーグ戦に取り組むことによってクラブが育っていくのです。

DUOリーグの理念
－文化としてのサッカーのあり方－

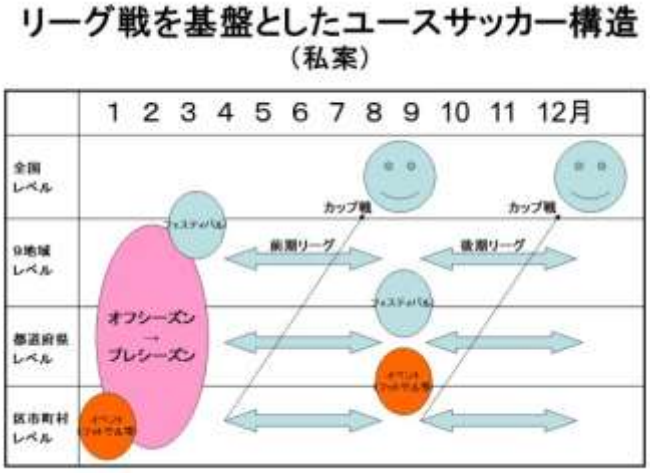
1.「歯磨き感覚」「引退なし」のスポーツライフ
サッカーの生活化
2.「補欠ゼロ」のゆたかなクラブ育成
チームからクラブへ
3. 強いチームとたくましい個の育成
レベルアップ
4. サッカーをささえる人材の育成
自主運営と受益者負担

2）DUO リーグがはじまったころ

東京都文京区、豊島区で、高校生年代のサッカー部と、クラブユース連盟の三菱養和が一緒になって「DUO リーグ」を始めたのが、先ほどの資料のあとの 1996 年 4 月のことです。大事なのは、漠然とした考えを“理念”として言語化し、共有したことです。歯

磨き感覚、引退なし、補欠ゼロ…。ここに掲げた“理念”は、DUO リーグだけが掲げるものでなく、文化としてのサッカーのあり方の根幹をなす思想だと考えます。皆さんが地域リーグを立ち上げる時にも、こういった考え方でやってほしいと思います。

イメージした年間スケジュールは右図のとおりです。



DUO リーグ立ち上げの話をもう少しさせていただきます。サッカー医・科学研究会で示した構想をすぐに、文京区、豊島区の高校サッカー部、クラブユースの仲間に伝えました。「こんなことを考えてる。4 月からやろう！」と。そして、理念に賛同したクラブが集まってきました。それが右図にある 6 クラブ 10 チームで、10 チームの 1 リーグ制です。昭和第一高校は、均等に 3 チームつくってこのリーグに臨みました。夏休み前の各学校の行事や高体連、クラブユース連盟の大会など、すでに決まっている日程を除いても、10 チームのリーグ戦なら充分できます。「はじめればはじまる」という考えでスタートしました。かなり評判が良かったので、2 学期に後期をやろうとなり、このタイミングで「入れてほしい」と言ってくるところが出てきます。ここで大事なのは、試合ができるから入りたいというだけでなく、理念とビジョンをしっかり理解した“同志”であることを確認したうえで一緒にやっていくことです。このようにして少しずつ広げていきました。「小さく立ち上げ、大きく育てる」がキーワードです。

DUOリーグの誕生（1996）

- 2月のサッカー医科学研究会で示した構想を、文京区と豊島区の高校サッカー部、クラブユースの“同志”に伝え、具体化。
- 4～7月に6クラブ10チームで開幕
  - 都小石川(2)、都向丘、筑波大附(2)、京華、昭和一(3)、三菱養和
  - 「はじめればはじまる」
  - この構想を面白がる、“遊び心”ある大人たちが、“Face to Face”でああだこうだ言いながら作り上げた。
- DUOリーグに「入れてほしい」と言ってくるところには、理念とビジョンを伝え、“同志”であることを確認した上で加盟承認

「小さく立ち上げ、大きく育てる」

こういうことは一人ではできません。この構想を面白がる、“遊び心”ある大人たちが、ああだこうだ言いながら作り上げていきました。よいアイデアは、飲み会の席で出てきました。プレイヤーにとっても大人にとっても、人生最高の“遊び”を作っているということです。

DUOリーグのあゆみと広がり

- DUOリーグモデルの「私的リーグ」が都内各地で誕生（1997）
- JFAnews連載「ユース年代のサッカーはいま！」（1997～1998）
- JFA指導者養成共通科目「スポーツ社会学」で紹介（1999～）
- 底辺からのレベル別リーグを組織化・公認化すべく準備開始（2000）
- JFAによるユースリーグ構想キャプテンズミッション（2002）

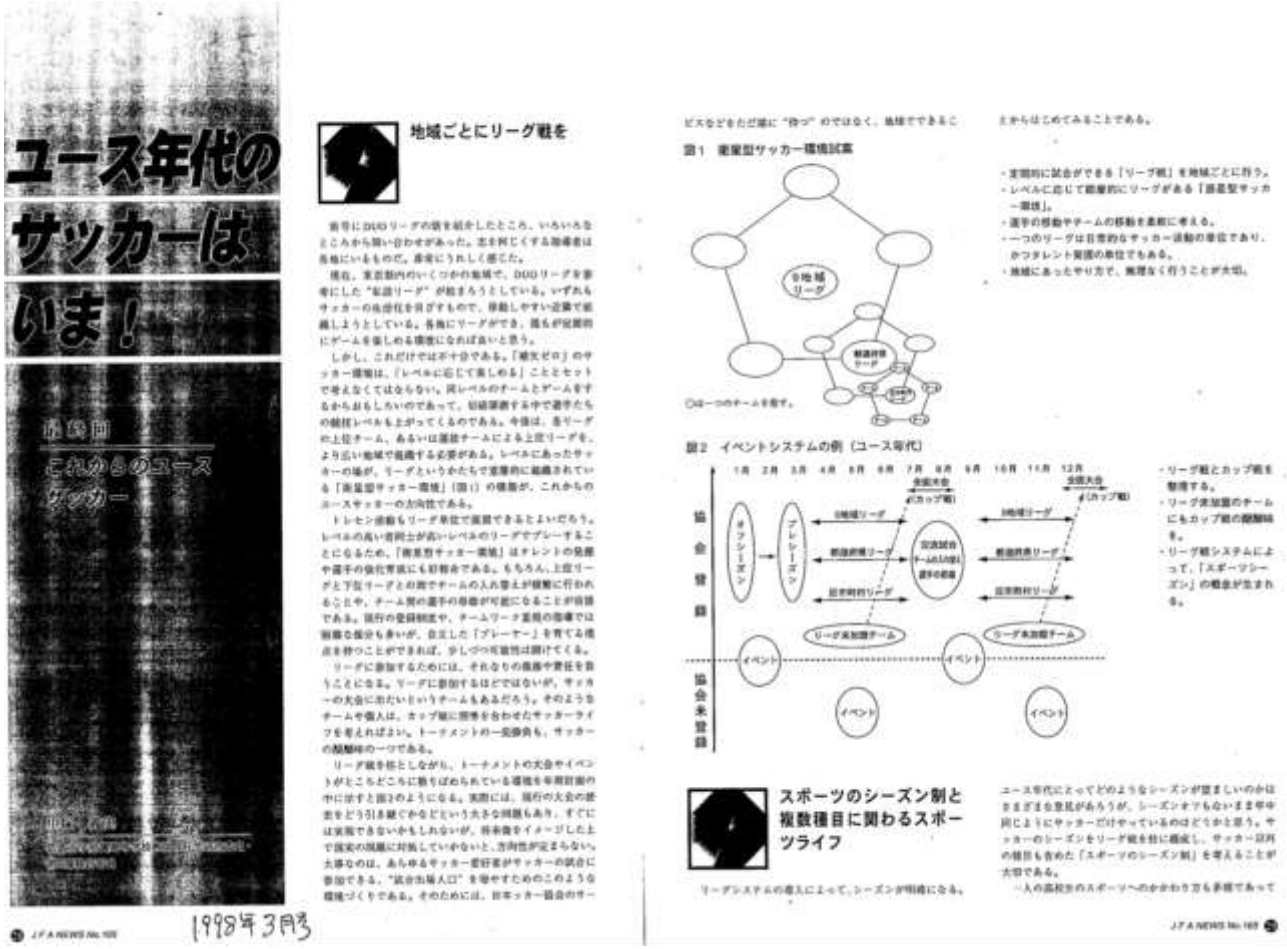
3）DUO リーグのあゆみと広がり

よいことはどんどん広げていこうということで、私もいろんなところで話をする機会を得ました。すると DUO リーグモデルのプライベートリーグが、都内各地で少しずつできてきます。ちょうどその頃、1997～98 年に日本サッカー協会機関誌 JFAnews に

連載するチャンスがあり、そこで紹介させてもらいました。また 1999 年からは、B 級と A 級の指導者養成講習会でスポーツ社会学の授業を担当するようになり、そこで社会学理論の具体的な応用例として DUO リーグを紹介させてもらいました。

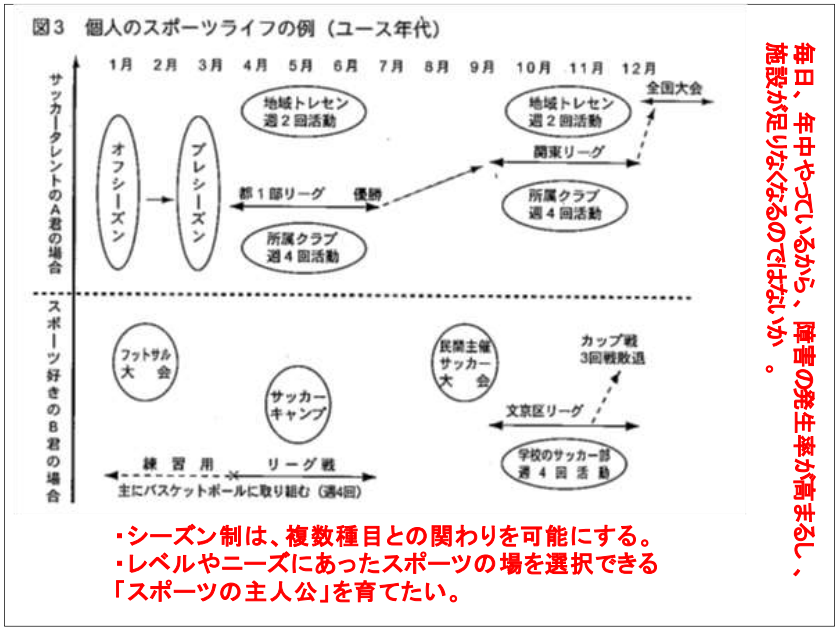
最初は任意のリーグ戦でしたが、これを公認リーグにしていくべく、2000 年度から東京都サッカー協会で公認リーグ立ち上げの動きを開始します。同時に JFA でもユースリーグ構想が、川淵三郎キャプテンの「キャプテンズミッション」の中に組み込まれ、私もメンバーの一人としてユースリーグを広げていくプロジェクトに関わりました。

このように持っていくためには、いろいろ戦略的な動きもしました。東京都高体連でサッカー専門部の委員長を務めた方が、その次は全国高体連で部長となり、JFA ではユース年代のサッカーを検討する委員会の長となります。東京都高体連の第 2 地区にはそのような方が身近におられました。学習院高等科の先生や、小石川高校の先生です。DUO リーグをはじめるときに、その人に理解してもらわなアカンと思い、その方の所へ出向いて「やりましょう」と話をしたのを覚えております。



JFAnews の連載最終回です。「これからのユースサッカー」ということで、「衛星型サッカー環境」、つまり底辺は近場で、レベルが上がるごとに広範囲を行き来する環境をイメージしています。とは言っても、高校生は 9 地域ごと、関東なら関東、東北なら東北、これぐらいの行き来が生活の一部としては限度じゃないかなと考えていました。

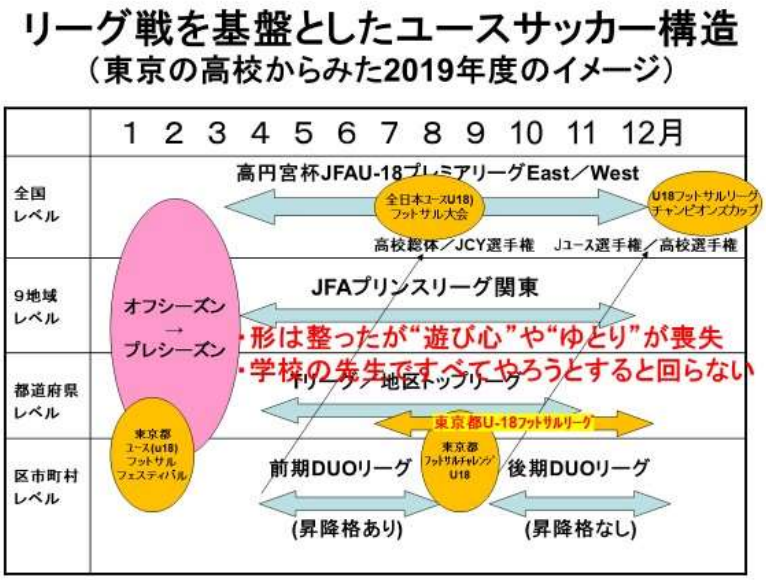
イベントシステムの例として書いているのは、前期と後期にレベル別リーグがあり、リーグ戦の合間にノックアウト方式のカップ戦がある。リーグの切れ目のところにはいろんなイベントがあるというイメージです。さらに、ここから先が大事なところですが、このようなリーグ構想をサッカーだけで完結させるのでなく、いろんなスポーツに広げていこうということです。そうすると、例えばサッ



カータレントの A 君は年間を通して前期リーグ、後期リーグで活動できます。ユース年代の選手の移籍も取り入れたらいいと考えていましたが、それはほとんどできていません。

スポーツ好きの B 君は、サッカーだけでなくバスケットボールもやりたいと考えます。それなら、たとえば前期はバスケットボールのリーグに、後期はサッカーのリーグに関わる。このような、スポーツのシーズン制が可能になるわけです。レベルやニーズに合ったスポーツの場が選択できる。「スポーツの主人公」を育てたいということです。毎日、年中やっているから障害の発生率が高まるし、施設も足りなくなります。これは、いまの部活動改革の考え方に合致すると思います。

右図は、コロナ前の 2019 年度の状況です。サッカーに関しては、先ほども言いましたがプレミアリーグの EAST と WEST がトップリーグになっています。青森山田のような強豪校や、J クラブの下部組織が含まれ、東日本と西日本に分かれてやっています。その下はプリンスリーグ、その下は都道府県リーグ…。皆さんご存知の通りです。我々の DUO リーグはさらにその下にあります。こうしたリーグ戦があるおかげで、レベルやニーズに応じて定期的にゲームができる。そしてノックアウト方式の大会も、高体連、クラブユース連盟のそれぞれで整備されているということです。

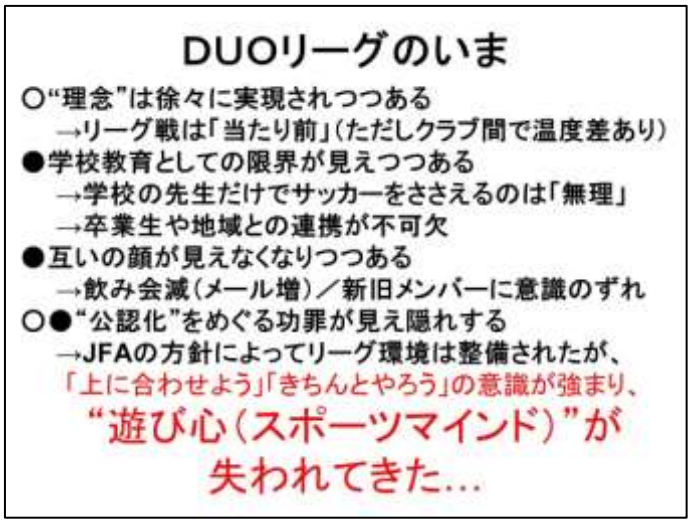


4）公認リーグと“遊び心”“ゆとり”の喪失

しかし、形は整いましたが、“遊び心”や“ゆとり”は失われています。学校の先生ですべてやろうとすると回りません。フットサルを重ねてみると、コロナ前、東京都では全日本の予選が終わる 6 月あたりから 1 部、2 部リーグがスタートします。1 部リーグは 12 月に終わるように組まれますが、それは 1 月のリーグチャンピオンズカップまでに優勝チームを決めるためでした。ただ、諸事情で後

ろにずれ込んだこともあり、特に 2020 年度以降はコロナでずたずたになっています。どの地域も同じだろうと思います。

とにかくフットサルをもっとやりたい高校生が、リーグ戦を整備して取り組むと、このようなスケジュールになります。すると、もうおわかりだと思いますが、サッカーのリーグとフットサルのリーグの両方に出ることはできません。どちらかです。両方やろうとするとオーバーワークになります。



「DUO リーグのいま」についてです。理念は徐々に実現されつつあります。リーグ戦は当たり前。ただしクラブ間で温度差があります。

学校教育としての限界が見えつつある。先生だけではダメです。

互いの顔が見えなくなりつつある。これもよく言いますが、飲み会減、メール増、新旧メンバーの意識のズレ。

公認化をめぐる功と罪。JFA の方針によって環境は整備されましたが、上に合わせよう、きちんとやろうという意識が強まり“遊び心（スポーツマインド）”が失われてきました。困ったことです。

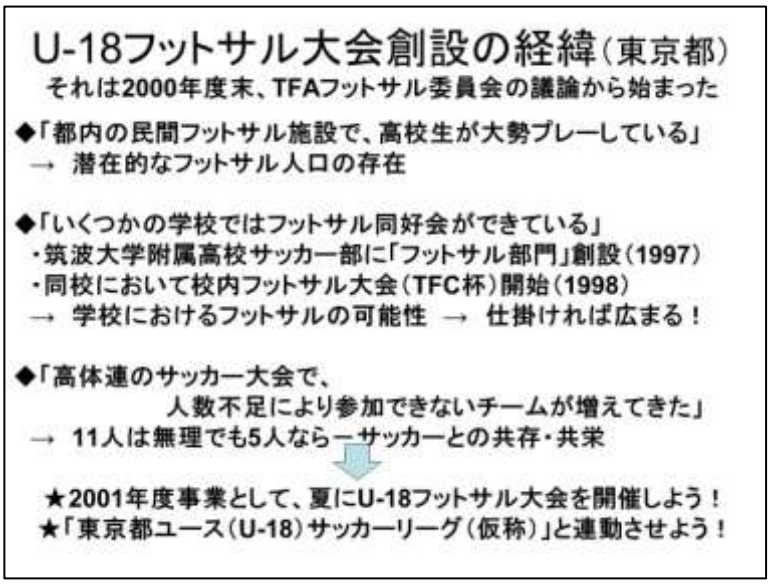
4 月の公開サロンでは、この話から始まって「トロフィーがないプロジェクト」のアートとの融合の話をさせていただきました。“遊び心”の喪失の話は、いつもついて回ります。

２．東京都における U-18 フットサルの事例より

１）フットサル委員会の議論

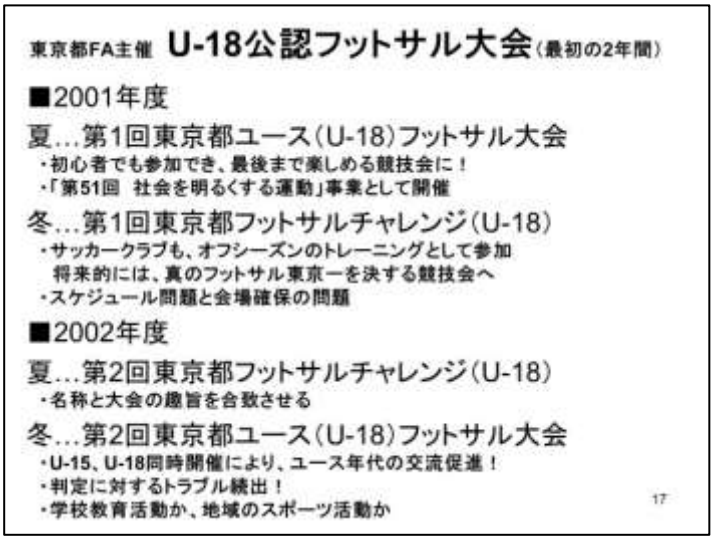
サッカーのユースリーグからみえるものについて話をしましたが、ここからは東京都における U-18 フットサルの事例をご紹介します。

「それは 2000 年度末、東京都サッカー協会フットサル委員会の議論から始まった」ということです。フットサル委員会ができ、少年の大会はミニサッカー大会から引き継いで行われ、中学生の U-15 大会が新設されました。第 1 種、大人の大会も新設されました。しかし U-18 大会はしばらくありませんでした。U-18 年代はサッカーのスケジュールが混み混みになっていることがひとつの理由です。U-18 年代は大人の大会に出ればよいというのがこのころの説明でした。しかし TFA フットサル委員会では「都内の民間フットサル施設で、高校生が大勢プレーしている」という話がありました。地方とは事情が違うと思います。東京都内で民間のフットサル施設がかなりできており、そこで高校生が大勢いるというのです。どのような子た



ちかというと、サッカー部をやめてしまったり、中学までやっていたけど高校では入りたくない、違う部活に入ったけどたまにはボールを蹴りたい、あるいは中学のころの友だちとやりたい、という人たちです。それから、いくつかの学校で、その一つは私が勤める筑波大附属高校ですが、「フットサル同好会ができている」。うちの学校では校内フットサル大会も開かれ、年 2 回、昼休みに男子 16 チーム、女子 12 チームぐらいの大会をやっていました。学校におけるフットサルは、仕掛ければ広まる。その一方で、「高体連のサッカー大会で、人数不足により参加できないところが増えてきた」こともありました。11 人は無理でも 5 人ならいけるんじゃないかと。このような議論の末、2001 年度事業として、夏に U-18 フットサル大会をやってみることになりました。これは、当時から進めていたサッカーの U-18 リーグ構想と連動させる考えです。つまり、サッカーのオフシーズンにフットサルをワンポイントで入れる形で、単発的な大会を構想しました。

２）TFA 主催大会のはじまり（2001 年度）



最初の 2 年間だけみても、いろんなチームが参加して、本当におもしろかったですね。例えば、体育の授業でサッカーを選択した仲間でチームを作って出てきたところがありました。大会ごとの登録制度だったので、このようなことができたのです。体育館を借りるのが大変でしたが、初年度の夏の大会は総務省の「社会を明るくする運動」、ラジオ体操をやっている組織ですが、そこが冠についてくれたおかげで小金井市総合体育館を借りることができました。ところが、やんちゃな奴らが試合に負けて更衣室のロッカーを蹴っ飛ばすんですよね。困ったものです。

夏の大会が好評だったので気を良くした我々は、冬もやろうじゃないかと。ここはサッカーのオフシーズンです。サッカー部も、リーグ戦がオフの期間、オフシーズンのトレーニングとしてフットサルに取り組んでもらい、出場してもらいたい。筑波大附属高校サッカー部も、フットサル部とともにこの大会に参加しました。

翌 2002 年度は、夏の大会を「フットサルチャレンジ」として敷居の低い大会とし、冬の大会を都内のチャンピオンを決める大会としました。冬の大会は U-15 も同会場・同日程で行うようにしていまに至ります。

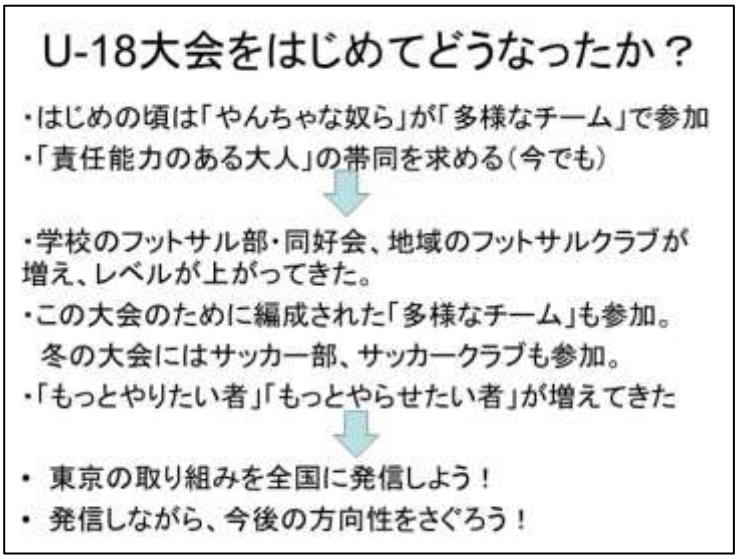
学校教育活動か地域のスポーツ活動かという問題はいまも続いています。こちらとしては地域のスポーツ活動として開催しますが、学校として参加してもらってもかまいませんというスタンスです。

写真をいくつかお見せします（本報告では略）。よく使っていた駒沢屋内球技場、「東洋の魔女」が優勝した体育館ですね。改修されていまは綺麗になりました。こちらは聖地、筑波大附属高校体育館です。フットサル大会が始まったころからよく試合をやっています。いまでは東京都サッカー協会提供のゴールも置かれています。神奈川の武相高校がここで熱い試合をやりましたよね。

U-18 大会をはじめてどうなったか。先ほども言いましたが、はじめの頃は、やんちゃな奴らが多様なチームで参加します。だから責任能力のある大人の帯同を求めました。民間フットサル施設で勝手にやる分には高校生だけでいいのですが、オフィシャル大会には大人が必要です。学校の先生でなく

てかまいません。学校の部活動でも、先生が引率する時があれば違う時もある。身分は問わないけど、ちゃんと大人が付いて指導してくれ、ということです。

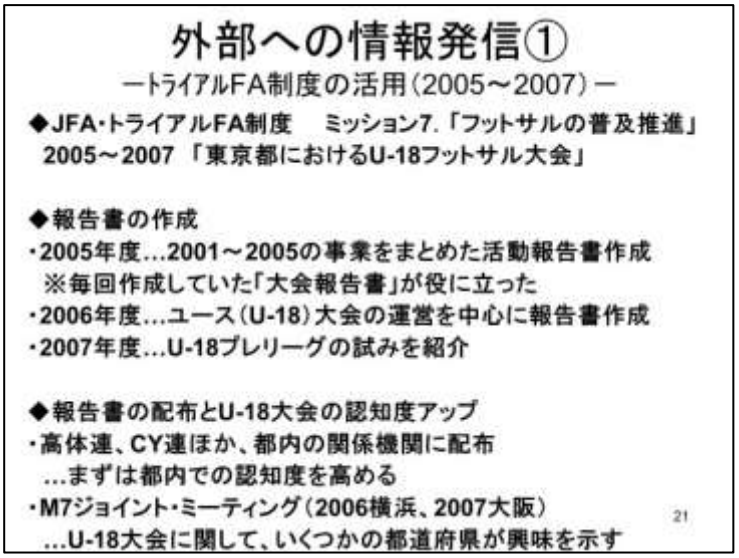
やっているうちに段々レベルが上がってきます。そして、もっとやりたい、もっとやらせたい、もう少しフットサルをやれば面白くなるんじゃないか、というようになってきました。ボトムアップで、底辺からの組織化が為されていきました。



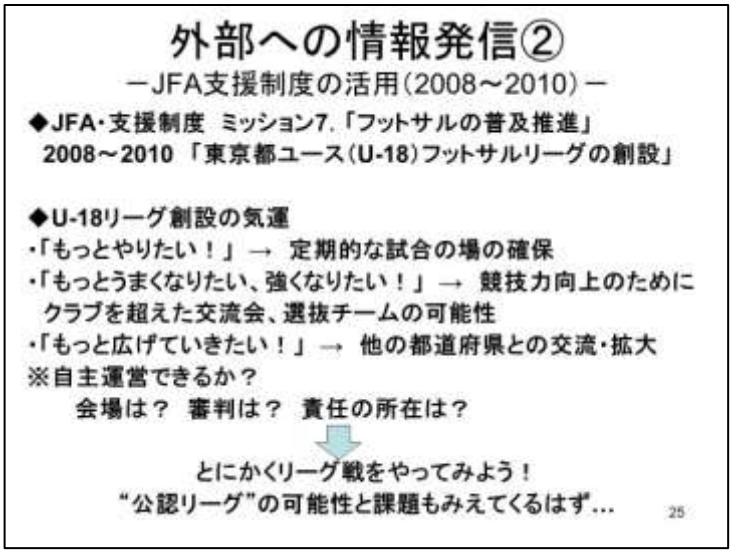
３）東京の取り組みを全国に発信！
ートライアル FA 制度

東京の取り組みを全国に発信しよう、発信しながら今後の方向性を探ろうと考えていたタイミングで、JFA のトライアル FA 制度が始まりました。ミッション 7「フットサルの普及・促進」に応募し、2005～07 年度の 3 年間、東京都の取り組みを冊子にして全国の関係者に配布しました。

ジョイントミーティングというのがあり、全国の方々に直接、東京の取り組みを紹介する機会もありました。神奈川や静岡でも少しずつ U-18 フットサルがはじまろうとしていたので、会場で意見交換した記憶があります。冊子はまだ少し残部があります。ご希望の方はお申し出ください。

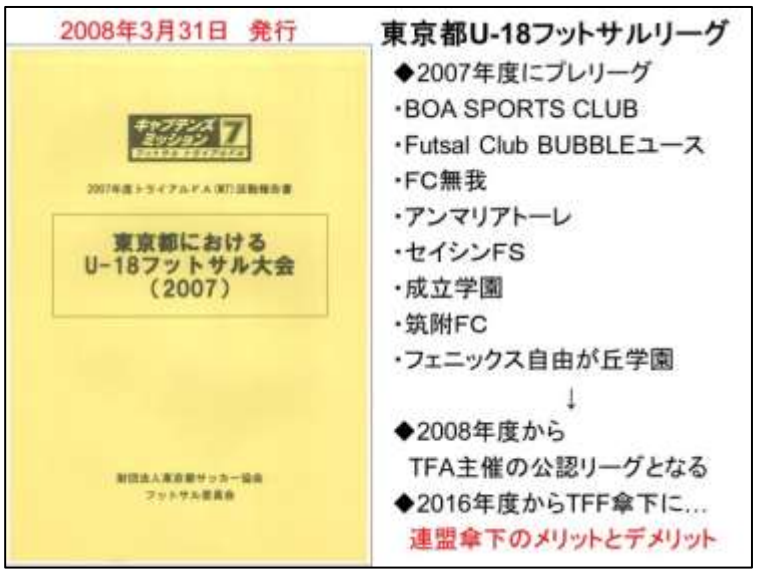


2007 年 9 月には F リーグが始まります。そして我々は次の段階です。「もっとやりたい」者が増えてきたので、やりたい人たちで集まってリーグを始めようということです。2008～10 の 3 年間は「東京都ユース（U-18）フットサルリーグの創設」を掲げ、補助金をもらいながら整えていきました。「もっとやりたい」は定期的な試合の場の確保、「もっとうまくなりたい、強くなりたい」はクラブを超えた交流会、選抜チームにつながります。「もっと広げていきたい」ということで他県との交流・拡大も志向しました。しかし同時に、「自主運営できるのか」ということが常に発想の原点にあります。会場は？　審判は？　責任の所在は？…。いろんな課題がありましたが、とにかくやってみよう、やっていく中で公認リーグの可能性と課題も見えてくるはずだということです。私の場合、サッカーの公認化の



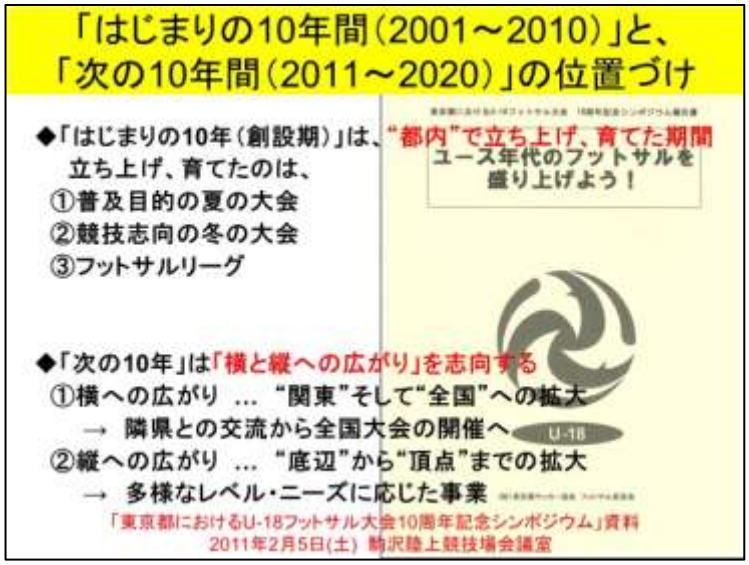
中でぶち当たった壁に対応した経験があるので、いろんなことが見えていました。それらの壁を、フットサルならではの解決策で打開してほしいというのもありました。

これは 2007 年度のトライアル FA 報告書です。2007 年度のプレリーグには、右に挙げるチームが参加しました。2008 年度からは TFA 公認リーグとなり、2016 年度から TFF（東京都フットサル連盟）傘下となります。ただ、連盟傘下になったことはメリットよりもデメリットの方が大きいかもしれません。何といっても加盟費・登録料が高い！



４）次の 10 年は横と縦への広がり！
－全国大会の創設

ちょうど 10 年経過した 2010 年度に 10 周年記念シンポジウムを開き、これまでのあゆみを整理しました。普及目的の夏の大会、競技志向の冬の大会、フットサルリーグを、「都内で立ち上げ育てた 10 年間」です。次の 10 年は「横と縦への広がり」を志向するのだということを、2011 年 2 月のシンポジウムで述べました。



このころ民間レベルではすでに、フジテレビ系列で夏高フットサルをやろうとしていました。しかし、学校をメインに据える考えはフットサルの理念とは異なります。民間の全国大会としては最大規模のホンダカップでも、U-18 のカテゴリーが 2010 年から始まります。FA 公認大会も、東京はじめいくつかの都県で始まっています。一方で、高体連はフットサルには及び腰でした。そんな中、2011 年 9 月、筑波大附属高校体育教官室に本多さんがやってきて作戦会議を開き、「将来的に公式大会となるような全国大会を開こう！」と、話が一気に進みました。その年度末の 2012 年 3 月末、「サッカーキングカップ　U-18 フットサルトーナメント 2012」が、株式会社フロムワン、株式会社シックスの主催、JFF 後援で、名古屋のオーシャンアリーナで開かれました。名古屋オーシャンズと作陽高校の決勝戦は見ごたえのある試合で、地元オーシャンズ U-18 が優勝しました。

その翌年もオーシャンアリーナで同時期に開催します。JFF と産経新聞社の主催です。この頃のサロン 2002 は法人格を持ってなかったので主催にはなれません。裏でささえる立場でした。そして大会初日の夕刻から、アリーナ上に机を出して、「U-18 フットサルを語ろう！」というシンポジウムを開きました。JFA フットサル委員会の松崎委員長や JFF 専務理事の大立目さん（肩書は当時のもの）にご登壇いただき、U-18 フットサルの今後について熱く語りました。こういう機会はものすごく大事だと思います。

それが、GAVIC CUP ユースフットサル選抜トーナメント、全日本ユース（U-18）フットサル大会につながります。選抜大会はいろいろあっていまはできていませんが、これらに加えて新設のリーグチャンピオンズカップを、NPO サロン 2002 で主催しています。ここまでの話でおわかりだと思いますが、日常生活に根ざした U-18 フットサルの場ーユースリーグを各地で育ててもらいたい、その動機付けになればということでリーグチャンピオンズカップを創設した次第です。この話は本多さんのところで出てくると思います。

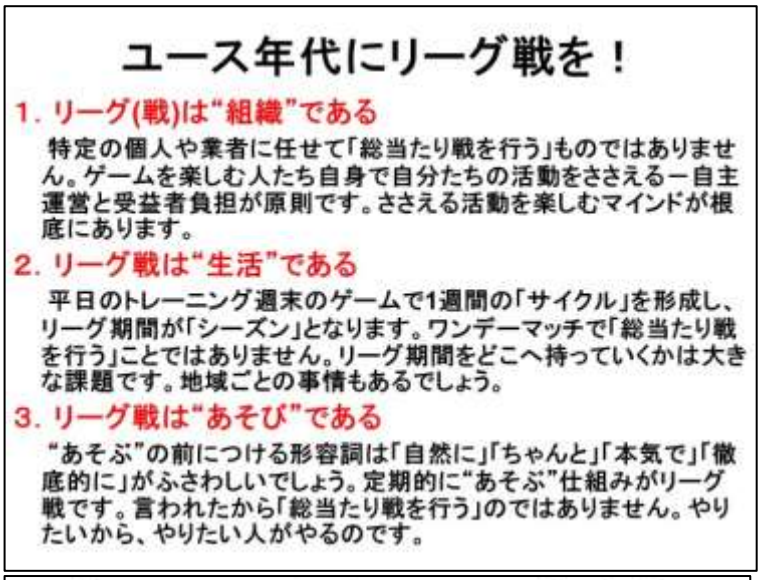
5）サロン 2002 からのメッセージーユース年代にリーグ戦を！

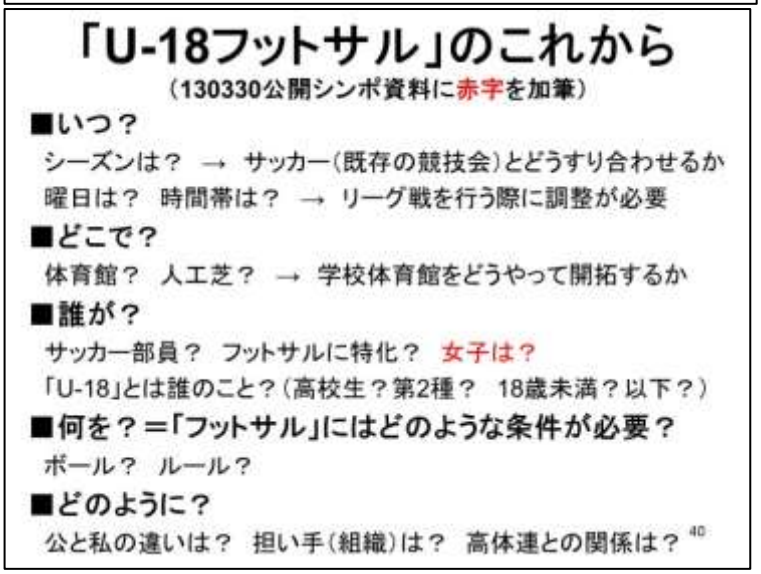
ここからが我々からのメッセージになります。皆さんにはさまざまな形で何度もお伝えしていることです。

リーグは“組織”です。特定の個人や業者に任せて総当たり戦を行うものではありません。ゲームを楽しむ人たち自身で、自分たちの活動をささえる。自主運営と受益者負担が原則です。「ささえる活動もおもしろい！」というマインドが根底にあります。だから審判も自分たちで育て、自分たちで回していくのです。

リーグ戦は“生活”そのものです。平日のトレーニングと週末のゲームが一週間のサイクル。リーグ期間がシーズンとなります。ワンデーマッチで総当たり戦を行うものではありません。リーグ期間をどこへ持って行くのかは重要です。地域ごとの事情もあると思うので、この後のディスカッションで披露してもらえればと思います。

なんと言ってもリーグ戦は“あそび”です。「どうせ遊びだから」という感覚ではなく、逆です。「遊びだからマジでやろうぜ」ということです。上から言われたから、協会が言っているから総当たり戦をやろう、主催者が条件を出してきているからそれに見合うチーム数を集めてやろうということでなく、やりたい人がいるから、定期的に遊ぶための仕組みとしてリーグがあるのだということです。





2012 年の公開シンポジウムの時に問題提起した「U-18 フットサルのこれから」に、赤字部分ー女子ーを加えたのがこのスライドです。ここに挙げられていることを皆で議論できればと思います。

フットサルのシーズンは？　曜日は？　時間帯は？　ここが重要ですね。

どこでやるの？　体育館が望ましいのですが、では学校体育館をどうやって開拓していくのか。また、人工芝はどうなのか？

誰がプレーするの？　サッカー部員にもやってもらいたい。けどリーグの一員としてフットサルに力を注ぎたいのであれば、フットサルに専念してもらわないとオーバーワークになるでしょう。女子のフットサルも盛り上げたいですね。U-18 とは誰のこと？　高校生？　第二種？　年齢でみるとおもしろい見え方がします。

さらに、フットサルにはどういう条件が必要なのか？　公と私の違いは？　担い手は？　高体連との関係は？…こういったことがこの後の議論で出てくればと思います。

先月の公開サロンでも紹介しましたが、「日本的スポーツ観：これまでとこれから」です。いま、大きなムーブメントの中にあるということを理解しておいてください。部活動改革は待ったなしの状況で、2023 年度から中学校の部活動の地域移行が本格的に始まります。高校も徐々に進むでしょう。このような中でのユースリーグです。本気で取り組んでいきたいと思います。

私の話はここまでですが、ちょっとだけおまけです。

我々の主催する U-18 大会を経験した選手が、その後どうなっていったのか。F リーグや年代別の代表チームで活躍する選手、フル代表入りした選手、それらを地域で応援している様子がみられます。このような情報をもっと共有していきたいですね。

もう一つ。いま東京で力を入れようとしているのが、女子のユースフットサルです。東京都では 2000 年度から女子フットサル大会が始まっており、大人の大会に U-18 女子チームも参戦し

日本的スポーツ観：これまでとこれから

＜これまで＞		＜これから＞
チーム	→	クラブ
選手	→	プレイヤー
多くの補欠	→	補欠ゼロ
競技志向	→	プレイ・スポーツ・競技
大会中心	→	日常生活中心
トーナメント	→	リーグ
引退あり	→	引退なしの生涯スポーツライフ
単一種目年中実施	→	複数種目シーズン制
「する」	→	「する」「みる」「語る」「ささえる」
単一価値観に集約	→	多様な価値観を認める
学校・企業	→	地域

徐々に進む日本的スポーツ観／スポーツ環境の見直し

東京都の女子ユースフットサル

◆2000年度　第1回東京都女子フットサル大会開催
（筑波大学附属高校体育館）

◆2003年度　第4回大会に「ハロープロジェクト」参戦
（2004年3月27日　於府中市総合体育館）

・大人の大会に出ても負け続き。同世代と試合をしたい！
・自分たちで「女子高生大会」創設（U-18フットサル10周年記念誌）

◆2012年度に「東京都女子ユース大会2012（プレ大会）」開催
女子の場合はU-15とU-18に差がみられないことから同じ大会に
◆2013年度　第1回東京都女子ユースフットサルフェスティバル
◆2017年度（2018年1月28日）の第5回大会より、
「SHIBUYA109ガールズフットサルカップ」となる
・女子高生大会は招待大会として単発で開かれる
・U-18＆U-15女子リーグ創設へ向けては…

SHIBUYA109ガールズフットサルカップ
東京都女子ユースフットサル大会

年度	回数	チーム数	優勝	決勝ｽｺｱ	準優勝
2012	プレ大会	8	十文字中学校ﾀｰｺｲｽﾞﾌﾞﾙｰ	5-0	文京AFC
2013	第１回	12	SOCIOS FC U-18	4-3	SOCIOS FC U-15
2014	第２回	9	十文字中学校	13-0	北区さくらガールズ
2015	第３回	12	ASUKA	11-5	十文字高校
2016	第４回	10	十文字中学校	9-0	FC町田ポニータ
2017	★第５回	12	十文字中学校	9-0	錦城高等学校K
2018	★第６回	12	FC 駒沢女子	3-1	FC ARMADOR
2019	★第７回	12	十文字中学校	11-0	町田ポニータchica
2020	★第８回	12	中止		

※2018年1月28日の第5回大会より「SHIBUYA109ガールズフットサルカップ」。
しかしコロナ禍で2020年度を最後に冠から離れる（2020も開催できず）。
※2021年度(第9回)は希望レベル同士の交流戦の形で10月17日、駒沢で開催。
参考）十文字中はJFAU-15女子2014、2017、2019年度で全国優勝！

ていました。いつも大人の人たちに負け続けるばかりだった女子高生たちが、「同世代と試合をしたい」のニーズから、自分たちで大会をつくり、定着しています。それをオフィシャル化する動きもあります。2013 年度に始まる女子ユース大会はその一つで、U-15、U-18 がともに競い合います。

この大会に SHIBUYA109、東急が冠につき、華やかに開催された時期がありました。マスコットキャラクターが会場に現れ、副賞も充実。しかしコロナです。2020 年度を最後に東急は冠スポンサーから降り、またもとの規模に戻りました。2021 年度はコロナの最中ではありましたが、希望するレベル同士の交流戦の形で実施しました。U-18 女子にも定期的にフットサルをやりたい子たちが増えてきているので、女子リーグを何とかしようという話をいま進めているところです。

2021 年 3 月 13 日の公開サロンは「東京都における U-18 フットサルの 20 年」と題して開催し、TFA フットサル委員会として冊子にまとめました。そこで「次の 10 年は U-18 女子のフットサルに力を入れる」ことを述べています。今後に注目です。

では本多さん、続けてもらえますか？

Ⅱ．U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップの現状と課題（本多克己）

－コロナ禍での大会運営と動画配信の取り組み
－各地域リーグの 2021 年度実施状況など

1．U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップ創設まで

今日参加されている北海道から九州までの皆さんとは、ゼロから大会を作っていく中で、いろんな形でご一緒させていただきました。本日、こういう形でお会いできて、大変嬉しく思っています。

私自身はホンダカップという大会を主催してきました。U-18 カテゴリーを 2010 年に立ち上げ、第 1 回の優勝は名古屋オーシャンズです。その翌年、写真は中塚先生のお話にあった作陽と名古屋オーシャンズの決勝戦ですが、「U-18 フットサルトーナメント」でオーシャンズが初代チャンピオンになりました。

大会をやっていくうちに、カップ戦だけでなく、リーグ戦をしっかりやってほしいと思うようになり、2017 年から NPO サロン 2002 で「U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップ」をはじめました。

また、「GAVIC CUP ユースフットサル選抜トーナメント」は、私たちが立ち上げた大会が日本フットサル連盟主催となり、選抜大会として行われていたものですが、2018 年以降は開催なしとなっています。しかしいま、兵庫県フットサル連盟の方でもう一度同じような枠組みでやっていこうということで、2023 年 3 月の開催に向けて準備しています。皆さんと連携して進めていきたいと考えます。

U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップの 1 回目は静岡で開かれ、地元「HeroFC」が優勝。2 年目はオーシャンアリーナで開催し、ここでも地元のサントス、ブラジルの匂いがするチームが優

勝。3 年目から長野県に舞台を移し、京都から参加の京都橘高校が優勝します。地元クラブ、F 下部、そして 3 年目は高体連サッカー部のチームが優勝ということで、いろんなチームが活躍してくれて、この大会をつくってよかったなと思いました。4 年目はシュライカー大阪。毎回、優勝候補は東京都代表と神奈川県代表と言っていましたが、5 年目にしてようやく東京都が優勝します。6 年目、今年の正月はフウガが本当に素晴らしいフットサルを見せ、圧倒的な強さで優勝しました。

チーム数は。8 チームからスタートしましたが、ここ 3 年間、おそらく本年度も 16 チームのノックアウト方式での開催となります。

GAViC CUP ユースフットサル選抜トーナメント

2012年に「U-18フットサルトーナメント」として創設。
2015年からは名称を変更し、一般財団法人日本フットサル連盟主催、サロン2002共催（2017年まで）で、全国9地域から選抜された12チームで開催。2018年度以後は開催なし。

2023年3月に兵庫県フットサル連盟主催で、選抜大会を開催準備中。

2012年　名古屋オーシャンズU-18(愛知)　/ オーシャンアリーナ
2013年　瀬戸内高校（広島）　/オーシャンアリーナ
2014年　幕張総合高校（千葉）　/ 駒沢体育館
2015年　愛知県選抜U-18 / 墨田区総合体育館
2016年　U-18新潟県選抜 / 墨田区総合体育館
2017年　U-18新潟県選抜 / 墨田区総合体育館
2018年　U-18神奈川県選抜/和歌山ビッグホエール

U-18 フットサルリーグ チャンピオンズカップ

2017年 1月6日㊏、7日㊐　**エコパアリーナ**（静岡県）　8チーム
優勝：**HeroFC U18F**（静岡県）

2018年 1月6日㊏、7日㊐　**武田テバオーシャンアリーナ**（愛知県）　12チーム
優勝：**SANTOS FC18**（愛知県）

2019年 1月5日㊏、6日㊐　**ことぶきアリーナ千曲**（長野県）　12チーム
優勝：**京都橘高等学校**（京都府）

2020年 1月4日㊏、5日㊐　**ことぶきアリーナ千曲**（長野県）16チーム
優勝：**シュライカー大阪 U-18**（大阪府）

2021年 1月9日㊏、10日㊐　**ことぶきアリーナ千曲**（長野県）　16チーム
優勝：**ペスカドーラ町田U-18**（東京都）

2022年 1月8日㊏、9日㊐　**ことぶきアリーナ千曲**（長野県）　16チーム
優勝：**フウガドールすみだファルコンズ**（東京都）

決勝は多摩大学フットサル部の福角有紘監督が解説。

２．コロナ禍での大会運営と動画配信の試み

去年、今年の 2 年間は、コロナ禍での運用ということで、チームの皆さんや長野県連盟を中心にした運営の方にも本当にご協力いただき、大会を開くことができました。

その中での大きなトピックとして、動画配信の試みが挙げられます。高校生のご家族、保護者の方は、試合を見に行きたくてもコロナで無観客にせざるを得ない状況です。そこで試合の映像を配信しましょうということで、関係者限定で、2021 年は Zoom、今年は YouTube を用いて、試合映像を配信しました。今日も参加されている富山の橘さん、サロンファミリーの磯さん、本郷さんらの協力で何とか運営できました。

決勝戦は素晴らしい試合でしたが、「888 回視聴」という数字が出ています。本来であれば何千人にも見ていただきたい試合でしたが、関

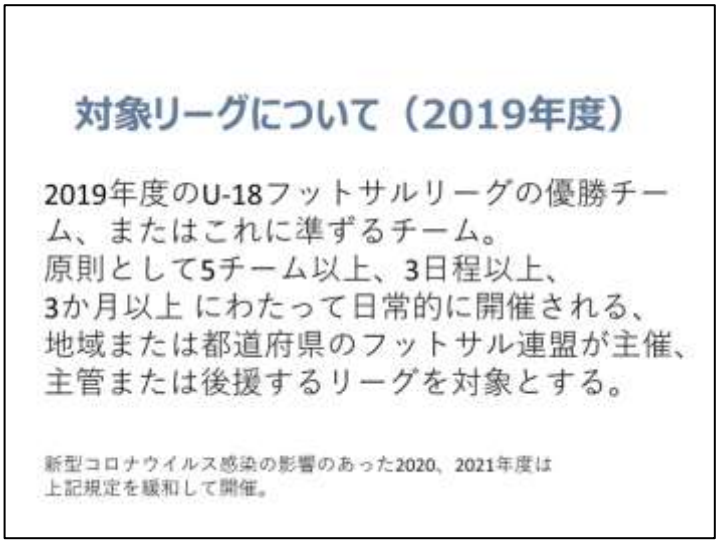
係者のみということで視聴数が限定されています。コロナ禍で無観客試合となっていますが、やはり皆さんの活躍をさらに知っていただく、発信していくために、今後は公開の方向も検討の対象になっていくのではないかと考えています。

決勝戦は多摩大学監督の福角さんが解説してくれました。みんなダウンコートを着て、寒い中での解説です。ボランティアで解説してくれましたが、選手たちにとっても素晴らしい経験になったのはないかと思います。

３．第 7 回大会（2023 年 1 月）概要

本年度の大会も例年通り、1 月最初の土日開催ということで、1 月 7～8 日に「ことぶきアリーナ千曲」を予約させていただいています。主管は長野県フットサル連盟、後援に長野県教育委員会、千曲市、地元の観光局や旅館組合にも入っていただき、地域密着で開催したいと考えています。温泉街の旅館もコロナで厳しい状況でしたが、高校生が全国から集まってくれるということで、地元の皆さんにも喜んでもらえる大会になっています。

現時点で私たちが把握しているリーグは、北海道、宮城、南東北、埼玉、東京、神奈川、富山、福井、長野、静岡、愛知、京都、大阪、兵庫、和歌山、熊本の 16 リーグです。今年 1 月の第 6 回大会は、この中で南東北、和歌山、福井が、コロナ禍でリーグ戦ができなかったということで、代表チームを送ってもらうことができませんでした。来年の正月は、できれば 16 リーグから 16 チーム参加で開催したいと考えています。これ以外にも新しいリーグが創設されているかと思いますので、情報がありましたらぜひお知らせください。ただしその場合、全リーグからの出場が難しくなるので、どういう形でチームを選ぶのかが課題となってきます。



どういうリーグが対象となるのかということで、2019 年、コロナ前に示した基準をスライドで示しました。厳密なものではありませんが、「原則として 5 チーム以上、3 日程以上、3 か月以上にわたって日常的に開催される、地域または都道府県のフットサル連盟が主催、主管、または後援するリーグ」としています。先ほど中塚さんから話があったとおりで、「5 チーム、3 日程」が重要なのではなく、「各地域で日常的に開催されているリーグである」ということが前提です。ただ、ガイドラインを設定する必要があるだろうということで、「原則として」という形で設定しています。昨年度、一昨年度は、コロナでなかなか開催しにくいということで、緩和した形で適用しています。

大会事務局として各地のリーグ関係者と話していると、「リーグチャンピオンズカップの予選」という言葉が出てきます。ここまでの話のとおり、予選をやってもらっているのではなく、まず各地域のリーグがあり、そのうえで優勝チームが出場資格を得る、という考えです。「そもそもリーグとは何なのか」ということを本日皆さんと共有し、皆さんが地域に持ち帰り、リーグ運営していただければというのが我々の思いです。

４．各地域リーグの状況

＜2021 年度　各地域の U-18 リーグ実施状況＞

	リーグ	主催	チーム数	日程	大会方式
1	大阪府フットサルリーグU-18	大阪府フットサル連盟	４チーム	2021年8月22日～2022年1月16日	４チーム２回戦総当りのリーグ戦
2	HYOGO U-18フットサルプレリーグ2021	兵庫県フットサル連盟	8	８・２９～１１・３	8チームを2ブロックに分けてリーグ戦を実施し、同一順位チームと順位決定戦を行う
3	神奈川県	神奈川県サッカー協会	21（1部9、2部12）	2021年6月20日～2022年2月12日	１部リーグ総当たり１回戦、２部グループリーグと順位決定リーグ
4	熊本県U-18フットサルリーグ	（一社）熊本県サッカー協会・フットサル連盟	７チーム	7/17.7/18.9/25.9/26.11/14.11/21（前期）後期は未定	１月のチャンピオンシップ代表を決めるための一巡目（前期）、1月以降に２巡目（後期）の総当たり２巡を予定
5	富山県U-18フットサルリーグ	富山県U-18フットサルリーグ実行委員会	12	未定	6チームずつの総当たり→順位決定戦
6	2021 京都フットサルU-18リーグ	京都府フットサル連盟	7チーム	2021年9月～12月	参加全チームによる1回総当たり戦
7	北海道U18リーグ	北海道フットサル連盟	5	１１月２１日～１２月５日	総当たり　リーグ戦
8	宮城県	宮城県Ｕ１８リーグ	5	9月下旬スタート	５チームによる２回戦総当たり
9	2021年度第16回静岡県U-18フットサルリーグ	静岡県サッカー協会フットサル委員会	14チーム	7/31(土)-12月末	1部・2部7チーム総当たりのリーグ戦
10	埼玉県	埼玉県フットサル連盟	8	最終日　12月26日	8チーム1回戦のあと上位下位に分かれて2次
11	OCSNEFL(ｵｰﾊﾞｰｹｶｯﾌﾟ南東北リーグ)	INNOVATION.FC	9	2021/5月14日/15日（コロナ禍の為中止）2021/8月21日/22日（コロナ禍の為中止）2022/3月13日/19日	参加チームの総当たり予定ですが、開催日数によっては変更あり
12	長野県U-18フットサルリーグ	長野県フットサル連盟	未定	10月上旬予定	参加チームによる総当たり
13	Ｕ－１８和歌山県フットサルリーグ	和歌山県フットサル連盟	４チーム予定	１０月～１２月予定	４チームによる１回戦総当たりリーグ戦予定
14	東京都ユースＵ－１８フットサルリーグ	東京都フットサル連盟	1部＝8　2部＝9	１０月から１月予定	各リーグ１試合総当たり
15	福井県U18フットサルリーグ	福井県フットサル連盟	4～6	高校サッカー選手権後１１月末から１２月	総当たり（予定）

2021 年度のデータですが、どのような形でリーグ戦が行われていたかを調査した結果をまとめました。回答いただいた順に並んでいます。これをみると、神奈川が 20 チーム、東京が 17 チーム。充実した、歴史のあるリーグになっています。それに次いで参加チーム数が多いのが、第 1 回大会が行われた静岡で 14 チーム。また、後ほどコメントいただきますが、橘さんを中心に進めていただいている富山県が 12 チームです。首都圏の東京、神奈川が先行して進んできた U-18 フットサルリーグは、静岡であったり富山であったり、人口にかかわらず地方で活性化されているリーグもあるということがわかります。

要は「誰がやるのか」ということです。皆さんと接する中で、東京だから、神奈川だからできたということでなく、それぞれに中心になって動いた人がいたからできたということを実感しています。その人と一緒に「これおもろいぞ！」と感じて、たくさんの人を巻き込んでいった過程が、U-18 リーグの活性化につながっているのだと思います。今日お集まりの方々は、その先頭に立って走り続けている皆さんです。この勢いをさらに地域で盛り上げていただき、その勢いをほかの地域にも広げていきたい。今日はそういったことを発信していくきっかけになればいいと考えています。

駆け足ですが、私からは以上です。

Ⅲ．各地域の現状

中塚：こちらで用意した話は以上です。ここからは、本日ご参加の皆さんから、各地域の状況をざっくばらんにお話しいただければと思います。うまくいった話だけでなく、地域に固有の問題や、皆が共通に抱える問題も出てくるのでと思います。例えばサッカーとのスケジュール調整の問題など、私からもいくつか問題提起させてもらいました。それぞれの状況をお話しいただけないでしょうか。

１．2021 年度の各リーグの状況と 2022 年度の見通し（各リーグ関係者）

本多：事前に私の方から、何名かの方にお声がけしてあります。その方から順にコメントをいただければと思います。北からでどうでしょう。北海道の荒川さん。苦労して運営している北海道の状況があるかと思いますが。

１）北海道

荒川：こんにちは。先月の DUO リーグの時も参加させていただきました。

「日常的に」という言葉に敏感になっています。日常的に行われるリーグが、北海道ではなかなかできないのが現状です。コロナ前においても、基本的にワンデーであったり。参加するチーム数が 1～2 チーム増えてきた中で、3 日程、4 日程と、徐々に広げてはきましたが、いかんせんチーム数が増えていかない状況がずっと続いています。

北海道はご存知のように。一年のうち半分ぐらいは積雪状態になっています。積雪でサッカーができなくなるので、カテゴリーによって差はありますが、小学生、4 種では冬場は室内サッカー、フットサルに取り組むチームが多いのです。だから逆に、伸びしろが非常にないと感じています。冬場はフットサルをやるもんだとなっていますが、そこからフットサルに専門的に取り組むチームが増えていかないのです。あくまでも冬場のトレーニングの一環ということで終わってしまう。U-18 年代、高校の部活のコーチや監督に話を聞いてみても、フットサルに向いている生徒はいるし、フットサルをプレーしたい生徒もいる。しかし学校の方針だったり指導者の引率問題があってなかなか踏み込めない。カレンダーが被っていなくても、指導者が付いていけないので参加できない。こちらが用意する、と言ったら言葉が悪いんですけど、大会を作ったりしても、なかなか参加ができにくい状況です。サッカーカレンダーを見ながら、インターハイが終わったあたりから 11 月、12 月にかけてやるのですが、北海道は広いので、端から端まで行くと、東京から大阪ぐらいまでの距離になります。冬場になると交通障害、雪害もあり、移動も非常に難しいところです。

U-18 のチャンピオンズカップに参加させてもらうようになったのも、チームにモチベーションを持ってもらおうというねらいがありました。我々の方で、優勝チームにはチャンピオンズカップへの出場を義務付けしているような形で進んできています。

しかし 1 月の第 1 週目の土日に、北海道では JFA、全日本の社会人の北海道地域予選とかぶっています。大人の試合ですが、若い世代も、社会人と一緒にプレーしているチームやフットサルに特化しているクラブチームだと、U-18 だけで全国大会－長野のチャンピオンズカップにスケジュールを合わせて参加がしづらい状況があります。マイナス面の話ししか出てこなくて恐縮ですが…。

私も日本連盟の地域選出理事をやらせてもらい、最近はガバナンス整備ということで、各地域の連携プロジェクトなどで東京や関東の U-15、U-18 の取り組みなどをお聞きしています。仕掛けの方法だとか、参考になることはないかなあと、耳を大きくして聞いていますが、なかなかうまくいきません。ちょっと長くなりましたが、以上です。

２）東京

有吉：東京都リーグの有吉と申します。よろしくお願いします。

中塚先生からも東京都リーグの話がありました。その通りなのですが、リーグ立ち上げ期にはいろんな苦労がありました。いま北海道が苦労されている話がありましたが、東京都も最初は、桜田先生、通信制の学校の先生の思いが強くありました。通信制の夜間学校で年齢層も幅広く、二十歳になる方も通っている学校の先生として「フットサルを通して、彼らにルールを教えたい」の思いです。挑戦して失敗する経験。違反してイエローカードやレッドカードが出ると仲間に迷惑がかかる。そういうことをフットサルを通じて教えたい。そんなところから、中塚先生の言う「日常的にフットサル

を」というところから始まったのが東京都のフットサルリーグです。ですので、どこかが場所を用意したとかではなく、趣旨に賛同したチームでコートを取り、参加費を取り、始めました。自分たちでラインを引き、審判も協会にお願いするのでなく高校生自身が資格を取ってやり、記録をつける。すべて自分たちのリーグの中でやっていくところから始まったのが東京都のリーグです。

ですから、かっこいいことじゃなく、本当に最初はこういう話し合いの中で、「ラインをテープでまっすぐ引けたら賞状をあげよう」とか。そんなちょっとしたことに対して評価をしてあげるという話から始まって数年が経過します。いまでこそ F リーグの下部組織もいて、勝負の世界という形になっていますけど、いまでも審判は基本的には高校生が自分たちでやり、オフィシャルの仕事、記録なども高校生自身がやっていく形で運営しています。

確かにチーム数は他県よりも多く、出やすい環境なのかもしれませんけど、選手数の多いところばかりでなく、クラブチーム、うちなんかもそうですが、毎年ひーひー言いながら出ているところも多くあります。F リーグの下部組織でも、今年のセレクションに 3 人しか来なかったとか、そんな話も聞いています。正直言って、いまの高校生年代に、フットサルが本当の意味でどこまで受け入れられているんだろうか疑問です。逆に、サッカーに情熱を持っていやってきたけど、ドロップアウトして、その先にフットサルがあった。けどフットサル連盟に所属して真剣勝負をやっている場だから、決して練習も楽じゃないんですよね。そうするとやっぱりこちらでもドロップアウト、フェードアウトしてしまう。結局、そこで我慢できない子は、こちらでも我慢できないということが結構あります。この年代の特徴かもしれませんが、そういうことを感じながら、運営しております。

僕自身はサロンフットボール時代から長く関わり、もう 35 年ぐらい、室内のフットサル、サロンフットボールから関わってますけど、実は北海道は昔からすごくサロンフットボールが盛んで、フェスティバルが北海道にあったんですね。サロンフットボール時代、3 つの大会が日本国内で行われていて、いまも沼津で一つ、選抜大会か社会人の大会があると思いますが、沼津のと、北海道のが全国大会みたいな感じであって、毎年、サロンフットボールの大会で北海道に行かせてもらっていました。ですから北海道も、そういう昔からの歴史のあるものがたぶんあると思うので、ぜひそういうところとも連携できたり、ほかの地域と交流できたらなと思います。よろしくお願いいたします。

本多：ありがとうございます。次は富山の橘さん、お願いできますか。橘さん自身は高校の先生で、高体連との融合がうまく進んでいるようにお見受けします。そのあたりもご報告ください。

３）富山

橘　：富山県の橘です。よろしくおねがいします。いま言われたように、富山県はどちらかというと「大会ありき」からスタートしているところが強いかなと思います。ただし、フットサルがやりたくてやっておられた方々がもともといらっしゃった。それは特に、富山県の西側の高校で、砺波地区というあたりになります。そこにひとつ体育館があり、冬場は結構フットサルに貸してくださいます。富山は北海道のように、冬場はフットサル、というところがあるんです。先ほどの中塚先生の話にもありましたが、「フットサルやってるやつらって体育館壊したりして嫌だよね」というレッテルを貼られてまして、貸してくれる体育館がなかなか増えない、逆に減っていくような状況がありました。その中でも貸してくださる体育館があったということと、冬場になると北海道と同じで、雪の影響で高校生たちがトレーニングができない。それをフットサルでやらせたいという考え方を持った方がおられました。

始まった頃、私はまだ中学校教員で、高校に赴任したところで選手が 7 人しかいないサッカー部の顧問をしていました。私はその時点で、フットサルを北信越リーグの選手としてやっていましたが、サッカー部の方は人数が少ないのでサッカーのリーグに出られない。がんばってやっているけど舞台

がない。そういう中で、フットサルならさせてあげられる。私もフットサルのことはそれなりにわかっていたので、県の東側にリーグを作りました。そして西側と東側で、交流じゃないですけど、最後に順位決定戦をするとちょっとした大会形式になるところからスタートしました。

しかし、どこのチームに参加していただくかを考えた時、東京都みたいにそこらへんでサッカーをしている高校生はなかなかいません。サッカーしてる子はみんな、高校でサッカーをしている形なので、フットサルをしてみたいと思ってもらえる高校に声を掛ける形で広げていきました。どんな高校が該当するかというと、まず私が見ていた学校のように、部員数がものすごく減っていたチームです。こんなことを考えています。子どもたちに試合をさせてあげたい。一緒にどうですか。こんなところからお声掛けしました。また逆に、強豪校で部員をたくさん抱えていて、試合をさせてやる場がないところにも声掛けしました。これがまず、チーム集めというところです。

富山県の西と東でやるんですが、フットサルで体育館を借りられるところがなかなかないので、運営できるぎりぎりが 6 チーム。1 日 3 試合がマックスです。なので、この形でいまのところやっています。運営できるかできないかというのは、フットサルを知っている方がおられるかどうかなので、先生だけで回そうとすると難しいのが現状です。ただし富山県はメリットがありまして、私立高校もそうですが、学校が体育館を二つずつ持っているんです。冬の間、雪のため外で活動できないので、外の部活も体育館の中でやります。しかも、ただ二つあるだけでなく、ほとんどの学校は、一階がピロティで、二階がフロアという、すごく充実した施設が学校にあります。これを使わない手はないなと思っています。ゆくゆくは学校の体育館を活用できるようにしたいですね。いま部活動改革で、日曜日が空くということがあります。そこで我々は土曜日を休みにして日曜日に使わせてくれないかと交渉しています。バスケ、ハンド、バド、卓球、バレーボールなどにお願いして、なんとかお借りできています。

もう一つ、サッカー部の顧問をされる先生も、サッカーを経験された方ばかりではありません。無理やり審判の資格を取らされ、引率もさせられ、「なんでこんなリーグ戦があるの」と思っている方もいらっしゃいます。引率はいいけど審判はいやだなという方には、「フットサルは審判を選手にやらせるんで、やりませんか」と声掛けをしています。サッカーもフットサルもわからない先生にも、「来ていただくだけでいいので」と引き込んでいます。

審判を選手たちにやってもらうというところで、全日本 U-18 の大会を開催するに当たっては、帯同審判が求められます。なので公認の 4 級審判資格を取って欲しい。しかし、資格を取るだけで大会で笛が吹けるかと言えば難しい。そこで、リーグ戦の中で、失敗しながら経験していくこともできればと考えています。

先ほど本多さんも言われていた高体連との融合。富山県はほとんどが高体連なので、逆に言うと、冬の大会にも参加してもらった VIENTO U-18 のようなクラブ、U-15 が基本のクラブチームですが、そこの子たちが中学校の仲間で集まってフットサルに出場するようなことがあります。指導者の志もあり、参加していただいています。

やはり富山県から見ると、新潟県の帝京長岡高校。フットサルで全国大会に優勝、準優勝されていてニュースにもなりましたが、高校サッカー選手権でも結果を出しています。これを高校の先生たちにも事あるごとに PR しながら、こんな指導をされてみてはどうですか、ということで仲間を増やしているところです。

その中で不二越工業高校、こちらもリーグチャンピオンズカップに参加されましたが、2 年前には高校サッカー選手権の県大会でベスト 4 まで久々に進出されました。「これは明らかにフットサルのおかげです」と、私は皆さんに言うようにして、また新しい仲間づくりができていけばと思います。

いま富山県で起きていることとして、フットサルに関わってきた大人、フットサルをプレーしてきた方や、いまのフットサル連盟の理事長や、県協会のフットサル委員長が、いま高校サッカー部のコ

ーチになり始めています。フットサルをやったことのある人が高校のサッカー部に入って行くことが始まっていて、そのチームとやるサッカーがとても面白いです。フットサルのエッセンスが入ってきているので、そういうことをお話ししながら、試合前も、試合後も、「あー、やっぱそれやってきたよね」みたいなことを言いながら、アフターマッチファンクションがいっぱい出てくるような環境にしていけたらなと思っています。

数年前の話ですが、いまは JFA の指導者養成のチーフをされている前川さんが、富山県にアシスタントユースダイレクターという職務でいらっしゃったので、色々アドバイスをいただきました。選抜活動も少しずつやっていたところだったのですが、コロナの影響もあって大会もなくなりました。富山県は、大会があるということが、例えば選抜チームを招集する口実になっていたんです。今度また開いていただけるということなので、ちょっと期待をしているところです。

まとまりませんが、富山県の情報はこんなところです。長くなりました。ありがとうございます。

４）兵庫

埒田：よろしくお願いします。本多さんから少し話をしてくれということで、資料をみて振り返ってみました。兵庫だけでなく関西の U-18 についても触れたいと思います。

私の勤務校は兵庫県の神戸国際大学附属高校です。フットサルは 2003 年に、同好会から立ち上がりました。最初は社会人のワンデー大会があっただけです。ただ、2010 年前後ですかね、施設連盟の選手権に U-18 のカテゴリーがあるということで、二回ぐらい関西の同年代のチームと初めて対戦をする機会があったのが 2010 年ごろだと思います。

ただ、先ほどもありましたが、そこには本当に素行のよろしくない、うちもよろしくなかったんですが、ふざけるだけのチームとかが出てきて、2011 年ぐらいで止まったと思うんです。せっかく同年代のチームと試合をする機会があったのですが。子どもたちも、大人たちはでかいとか、なんかずるい、みたいなことを言い、やっぱり同年代とやりたいという思いが強くなってきたところに、本多さんとの出会いがありました。2011 年の終わりぐらいだと思います。本多さんが「U-18 のフットサルを盛り上げたい」との話があり、志が同じなので「私も協力させてください」となりました。

まずカップ戦ですね。毎年夏に、神戸のグリーンアリーナで行われるグリーンアリーナカップは、2012 年が 1 回目です。そこで本当に初めて、全国のいろんなチームの方々との出会いがありました。こういった同年代との戦いをぜひ日常的なものにしていきたいということで、「本多さん、リーグを立ち上げてくださいよ」と言ったら、「いや、それは違う。カップ戦は主催者が用意するけど、リーグは自分たちでやるもんや」と。

それはそうだなということで、第 1 回グリーンアリーナカップで出会った大阪のチームの人たちや、岡山作陽高校など、府県を超えてリーグ戦を始めませんかとなりました。岡山も入っているし、当時は各府県の連盟、協会の公認も一切なかったので、兵庫という名前を使ってはいけない、関西という名前も使うなということもありました。まあ西でやってるんで、「ウエストリーグ」が立ち上がったのが 2013 年です。

2013 年にウエストリーグを立ち上げ、最初は 6 チーム、最終的には 10 チームぐらいになりました。いまは解散したようなチームもいくつか存在しますが、京都の gatt さんからは、いま府中アスレの上村充哉君が日本代表選手に選出されていたり、クラーク高校からは、アンダーカテゴリーの代表にからんでくるような選手も何人かおりました。

ただ、やはり広域開催には無理があります。「近場でやる」ところで発展的に解消し、兵庫、奈良、大阪、京都の個々にリーグを組織する方がいいんじゃないか、各府県リーグを盛んにするほうがいいんじゃないかとなり、ウエストリーグは 2013、14、15 年の 3 年間で終え、2016 年に発展的に解消し、各府県リーグを立ち上げることになりました。残念ながら岡山県はリーグが立ち上がっていませ

んが、兵庫、大阪、京都ではリーグ戦ができています。日常というか、長距離を移動することなく、県を跨がないでリーグ戦ができているところです。

兵庫に関しては、最初は 4 チーム。2013 年に 4 チームから始まって、昨年度は 2 クラブが AB の 2 チーム出した関係もあり、6 クラブの 8 チームで実施しました。本校のような高校のフットサル部、クラブチーム、F リーグのデウソン神戸の下部組織、初めて高校のサッカー部からも参加がありました。先ほどから話が出ていますが、部員数が減ってきて、サッカーは 11 人ギリギリだけどフットサルをやらせてもらいたいということで入って来られました。最初はルールの違い、オフサイドがないところで、サッカーではありえない得点が生まれるなど、ついてこらなかったのですが、ここの監督さんが熱心な方で、毎試合、動画を撮影して研究され、リーグの後半にはすごく強くなりました。サッカーをやってる関係でもともとフィジカルが強いこともあります。最後は普通にフットサルとして戦えるようなチームになりました。やっぱりサッカーの子たちは成長が早いなと思います。サッカー部が出てくるワンデーのカップ戦とかに出ると、予選のグループリーグでは勝てるんですけど、徐々にその子たちがフットサルに慣れて来て、決勝で負けちゃうなんてことを過去に何度も経験しています。サッカーの子たちのポテンシャルはすごいなあって思いましたね。

今後の話ですが、兵庫県ではいま、サッカーをやっている高校がこのリーグに入ってくることはなかなか難しいところです。彼らは彼らでリーグ戦の日程があります。兵庫県としては、リーグチャンピオンズカップまでには優勝チームを決めたい。ほかの県、例えば熊本県は、前期の優勝チームが長野に行けるようにしています。兵庫は、途中じゃなくて最後まで、本当に 1 位を決めたところで行きたいということで、11 月末ぐらいで終わるようにしています。そうするとサッカー部はなかなか出られません。それとは関係なく、1 月、2 月、3 月のアフターシーズンのところで交流戦みたいなものを、サッカーをやってる子も交えてできればと思っています。先ほど本多さんから話がありましたが、兵庫県連盟としては 1 月、2 月、3 月に、かつてあった選抜大会をぜひ復活させたい。ぜひほかの地区、地域のみなさんに協力していただき、来年 3 月に兵庫に来ていただいて選抜チームの交流戦をやらせていただければなと思います。ご協力をお願いします。

５）熊本

鶴田：熊本県の鶴田と言います。よろしくお願いします。

熊本のリーグ戦は、今期で 12 回目を迎えます。チーム数は、第 1 回からいままでずっと 7 チームぐらいでやってきて、大きく変動はしていません。立ち上げの 3 年間ぐらいでリーグ戦を作り、その後 4，5 年目ぐらいで安定期に入り、ここ 1，2 年でまたリーグを進化させていこうみたいな流れがフットサル連盟の方でもあります。そのあたりの話をさせていただきます。

参加チームは、立ち上げのころは各都道府県の皆さんがおっしゃってたように、サッカーをする場所がない子たちや、発散する場所がない子たちが多く、かなりリーグ戦も荒れていました。あとは整ってなかったり時間通りに来なかったりということが多かったです。ここ数年、リーグチャンピオンズカップの影響もあって、リーグとして競技の価値がすごく高まってきました。スポーツとして真摯に取り組んでいこうみたいな流れができています。表現として、中塚さんがおっしゃっていた、フットサルは「遊び」っていうところですね。そこに対して、位置付け的に正しいのかどうかはわかりませんが、ただ選手間で競い合ったり、自分たちの活動の価値を見出しているという意味では、すごく大きな影響をいただいていると思って感謝しています。

参加チームですが、前期のリーグが終わって、後期リーグで最終的な順位を決めるときに日程が足りなくて、上位リーグと下位トーナメントに分ける形を取りました。参加チームは、クラブチームが 1 チーム、高校のフットサル同好会、国府高校がずっとやっていますが、そこが 1 チーム。それ以外はすべて高校のサッカー部です。サッカー部は、第一高校の監督さんがフットサルを過去、九州リーグ

でプレーされていて日本代表になった経験もある人なんです。その人が監督をされているので、サッカーにフットサルが生きるという観点で参加されています。あとは鹿本高校、上天草、球磨中央。この 3 校は。サッカー部として部員数がちょっと少ないチームです。あと、過去には秀岳館高校といったサッカーの強豪校も、トップチームに入っていない選手たちの活動の場として活用してもらったりされてました。ここ数年参加していません。

ここ 1、2 年ですごく活発になりそうだなという見通しで行くと、第一高校さんですね。フットサルをされていた監督さんが、サッカーの 2 種委員会の全チームにフットサルリーグの案内を流してくれました。それでチーム数が今回も何とか 7 チーム集まった。このようにサッカーの 2 種委員会との連携をうまくとるパイプ役の人がいれば、チーム数も確保できていくと思います。リーグをするにあたって、参加チーム数はすごく重要な要素になるので、参考になればと思います。

去年の要項ですが、期間でいうと去年は 6 月からとなっていますが、実際には 7 月にスタートし、12 月に前期を終えるスケジュールです。もともとはサッカーチームがスケジュール調整しやすいように、今月はこことここが候補日ですというのをこちらからお知らせして、参加可能な日程を聞いて、参加可能な日程にあてはめていく形をとっていました。運営側の手間がかかって労力も費やしたんですけど、そうでもしないとなかなかサッカー部の調整がきかないようなところもありました。ここ 1、2 シーズンは、こちらからスケジュールを提案し、各チームがそれに合わせて動く形が取れるようになってきています。

開催場所は、県内の公共施設と、EFK フットサルフィールドです。過去 8 シーズンぐらいはずっと民間フットサル施設の人工芝の上でやってきました。ただ昨シーズンから、県の連盟の方でも育成年代に力を入れようという方向性になり、社会人フットサルリーグの会場を、前後に余白を作って U-18 リーグを入れてもらえるようになり、昨シーズンから全試合体育館で開催することができています。

各都道府県で状況は違うと思いますけど、フットサルの中でも 1 種の社会人リーグとうまく連携をとれば、会場の確保もうまくいったと感じたので、これも参考になればと思います。

どのように運営しているかというと、フットサル連盟が一人担当をつけてやっています。試合当日の運営は、各都道府県の皆さんと同じように、選手たち主体で審判と会場設定をすべてやるようにしています。

リーグとしては普及と底辺の拡大の部分を大事にしているので、多少のミスには目をつぶりながら、社会人リーグとクオリティーは全然違いますが、向上心を持ってミスしている分にはしっかり大人が支えていこうという形でやってます。こんな感じでリーグ戦が進んで来て、おかげさまでどんどん発展してきていると実感しています。

リーグの中で起こったできごとを一つお話します。2022 シーズンにペスカドーラ町田からバサジィ大分に移籍した、本石猛裕という選手が熊本出身です。かなりわんぱくでやんちゃな性格ですが、そいつが高校生のとき、高校 3 年生の秋の選手権が終わって、うちのチームに入ってきました。大学の進路がサッカーで決まっていて、そのためのトレーニングとしてフットサルをさせてくださいということです。「みんなとも仲良くなったし、じゃあ U-18 リーグチャンピオンズカップに一緒に行くか」って聞いたら「行きます」ってことになり、参加しました。そのときの移動のフェリーの中で、「鶴田さん、俺、大学でサッカーやろうと思ってたんですけど、フットサルで日本代表になる可能性があるのならば、チャレンジしてみたいです」っていう相談を受けました。いざリーグチャンピオンズカップに出た時に、当時の日本代表監督、U-20 の代表監督だった鈴木隆二さんからお声掛けをいただき、彼は大学サッカーで決まってた進路を再度考え直し、フットサルで多摩大学に進学し、日本代表を目指しチャレンジする流れになりました。進路に関してはいろんな方にすごく迷惑もかけましたが、彼がいま日の丸を背負ってプレイしている原点が、この U-18 リーグとリーグチャンピオンズカップにあります。一人の若者の人生に大きな影響を与えたなというところで感謝しています。

今後についてです。熊本はここからチーム数も増やしていこうということで、サッカーの 2 種委員会と連携してやっていこうとしています。また、九州では熊本しか U-18 フットサルリーグがないのですが、福岡県が開催する噂もちらっと聞いています。正確な情報が入ってきてないので、入り次第、連絡差し上げます。こんな感じで熊本県の U-18 フットサルリーグは進行してきました。

本多：ありがとうございます。鶴田さんに話をお願いし、最後にこんなええ話が出てくると思ってなかったんで、ちょっと驚いてます。ありがとうございます。

最後になりますが、これからの日本の U-18 世代のフットサルの絵を描いていらっしゃいます、大友先生お願いします。

６）神奈川

大友：こんばんは、大友です。荒川さんとは日本連盟のガバナンス、交流会の方でお会いさせていただきました。あと有吉さんとも関東の方で顔合わせさせてもらっています。

神奈川県横浜市の武相高校に、生徒たちの熱意でフットサル部が出来て、今年で 20 年になります。2002 年のワールドカップイヤーにフットサル部が立ち上がり、当初は学校の片隅でボールを蹴れたらそれでよかったんです。ただ、だんだん欲が出てきて「先生、大会出ましょう」と大会に出るようになりました。

裕田先生も先ほど話された通り、当時はとにかく大人しかいなくて、フットサル施設の大人のエンジョイ大会に参加していました。当時はフットサルがものすごい人気で、募集したらあっという間に全部埋まる。だから、コートを予約するのも大会に申し込むのもなかなか大変な状態だったんです。2003 年には社会人リーグに出るようになりました。自分はというと、資格も経験もないものですから、まず 4 級審判の資格を 2003 年にとり、2004 年に 3 級審判に昇格し、サッカー協会の試合の笛を吹くようになりました。そこからコネクションができ、その翌年にはサッカー協会に入った次第です。高校生の大会を見つけて、東京都の U-18 大会に出たいと電話をしたら、神奈川県のチームはお断りとなりました。そこで、神奈川でも作ってくださいと神奈川県サッカー協会にお願いをしたら、いや、君が入って作りなさいと。これが協会に入り大会を立ち上げることになったきっかけでした。2006 年にカップ戦ですが、神奈川県 U-18 大会を作りました。この U-18 フットサル大会をやって、自分たちでも作れるのだという経緯がすごく大きかったと思います。何もなかったからこそ、立ち上げることができました。今振り返ると、審判員を行っていること、学校の先生であることが、協会に入る条件として整っていたのだと感じています。

カップ戦が年 1 回じゃ物足りないから、2007 年には年 2 回に増やし、3 年目の 2008 年にはリーグ戦をやっちゃおうとなり、2006、07、08 年の 3 年間で、カップ戦その 1、カップ戦その 2、そしてリーグ戦まで一気につくって行ったのをよく覚えています。

もちろん順風満帆ではなく、初年度リーグは 8 チームで始めたんですが、翌年には 6 チームに減りました。3 年目に 9 チームとなりました。そこからは少しずつ増え、ここ 4、5 年は 20 チーム前後でやっています。ただ、たぶん自分が、言ってみればワンマンでやってきていることが弊害であり、伸び悩みの要因ではないかと考えています。30、40 チームというのは、いまのところ想像がつきません。20 チームと言っても、毎年 3 チーム増えて 3 チーム減っている。このところ停滞状態です。

神奈川県の U-18 フットサルリーグで、自分が面白いと思っていることの 1 つは、慶応高校のフットサルサークルが参加していたことです。この子たちは親も巻き込み、2015 年から 7 年間、リーグ戦にエントリーしていました。いわゆる指導者なしのチームが、自分たちだけで、ユニフォームの発注から大会登録、合宿の手配まで、すべてやっていました。たぶん高体連とか、そういった現場では考えられないようなものも受け入れられるリーグでした。先ほど DUO リーグの話を中塚先生がおっしゃい

ましたが、こういったチームも参加できたのがすごく面白かったですね。慶応高校のチーム自体は、なくなったわけではないんですけど、昨年度リーグで全敗し、ここ数年勝てなくなってきているのもあって、リーグ戦への参加を見直すということになってしまったのは残念です。

一方で、今年度久しぶりにサッカー部が参加しました。20 チームの中に高体連のサッカー部は、鶴見大学附属高校と光陵高校の 2 校だけ。鶴大が 2 チーム出しているので 3 チームしかいないという、ちょっと寂しい状態だったのですが、久しぶりに高校サッカー部が 1 チーム増えました。7 人しかいないそうで、サッカーに出られないのでフットサルに出たいと。今年から赴任したサッカー部の顧問の先生が、選手たちに試合を経験させたいという思いで参加していますと。こんなに熱意のある先生に、どこでフットサルをしていたのか聞いたら、北海道の出身で、フットサルはサッカーと並行してずっとやってきたので、ぜひ子どもたちにもフットサルをやらせたいんだと。そういった繋がりも生まれてくるんだなって感じたのが、つい最近のできごとですね。そういったいろんな人と人との繋がりを大事にしながらここまでやってきています。

２．U-18 フットサルの今後

大友：リーグ戦も、東京都、神奈川県で、もう 15 年。たぶん静岡も同じ年数になります。静岡は年 2 回やっていた時期もあるので、回数だと静岡県の U-18 リーグが一番多いんです。けど、15 年やってきて 47 都道府県を振り返ると、全く普及してない。これは、僕がこの立場で言っていいのかわかりませんが、オフィシャルの組織、日本フットサル連盟がもうちょっと頑張るべきだったと感じています。

いま自分は、神奈川県フットサル連盟の理事長になってもう 7 年ぐらい経ってるのかな。今年度からは関東フットサル連盟にユース委員会を設立してもらい、ユース専門委員会の委員長に就任しました。どうにか関東モデルというのを 9 地域に示せるようにしてほしい。関東モデルと言っても、例えば、北海道、東北、それぞれいろんな取り組みしてるのも重々承知しています。北信越もそうですし、わかっているのですが、情報を整理して提供することができればと考えています。

先ほど橘先生が「要項をください」とおっしゃっていました。例えば本多さんを介して皆さんに、神奈川の要項はこんなですよとか、そういったものを提供できればいいかなと思っています。繰り返しになりますが、日本連盟の方で本腰入れて地域大会をやりましょうと、こういった取り組みができればいいなと思っています。

あとは、先ほど立ち上げの話をしたんですけど、神奈川では 3 年間でリーグまでたどり着いたことを考えると、やはり「そのうち」っていうのはよくなくて、3 年間でステップアップを見つけていくのがすごく大事だと思います。

中塚先生の最初のお話で示されていましたが、カレンダーづくりはすごく大事だと考えます。例えば、各都県リーグが 6 月からだいたい 2 月、1 月位まで。リーグ戦を実施するために、カップ戦もすごく大事になってくるんじゃないかと思います。実際、神奈川県のリーグは、ほとんどの場合はカップ戦に最初出てくれたチームです。特に参加費の安い大会。2 月はカップ戦に 1 万円で出られるんですね。補助金もある。このカップ戦でチームを新規開拓すると、やる気のあるチームはすぐそのまま全日本選手権予選に来てくれるんです。全日本選手権に出てくれたら、じゃあリーグにも参加してみようかな、となる。このステップで一気にリーグまで行ってくれる。普及大会という意味では、毎年夏に、これが立ち上げの大会でもあるのでリーグカップのような状態になっている。リーグがいま 1 部と 2 部に分かれてしまったのもあるので、1 部 2 部関係なく、各チームがぶつかり合うカップ戦。

なので、全日本予選と合わせると、年 3 回のカップ戦＋リーグ戦ということで、年間を通してフットサルだけを活動しているチームが、目標を常に持ちながら活動できるんですね。またリーグ戦に参加できなかったとしても、例えばサッカーを中心に活動しているチームも、スポットでこの 3 大会のうち 2 つに出ようかな、3 つ出ようかなとか、今年はリーグだけで行こうかなとか、今年はカップ戦だ

けで行こうかなっていう選択肢にもなっていくと思うので、こういったところを整備していけると考えています。

関東 U-18 リーグは、地域リーグとしていますが、僕も、例えば栃木県にリーグ戦のために毎月行こうとはこれっぽっちも思いません。お金もかかってしょうがないし、自分の生活も大変になってしまう。なので、関東 U-18 リーグは、今回のリーグチャンピオンズカップと一緒で、短期決戦。4 日以内にできるようにしたいなと本年度は考えています。4 日にこだわるのは、4 日が限界だからというのもありますが、大体 10 月中旬から 11 月末、もしくは 12 月まで延長するかもしれませんが、地域でリーグをやっているチームだけに限定してカップ戦をやる。参加条件は、リーグをやっていること。なので今年は、ひょっとすると東京、神奈川、埼玉の 3 つだけになるかもしれません。また、リーグやってないと出られませんよと断言したので、いま千葉がリーグ戦をやろうとしています。リーグ戦さえやってくれれば、やるっていう確約さえ取れれば、年度内でもいいから参加できますよということでやろうとしています。

地域の、都県同士の仲が悪くなってしまっても意味がないんですね。協力が得られてはじめて成立するので、選抜大会を同時に立ち上げ、昨年度プレ大会もやりましたが、ここは単独チームとか選抜とか関係なく、ユーストーナメントと全く一緒で自分としてはやりたい。反対意見もあるんです。選抜って言いながら、なんで選抜チームだけでやらないのとか、選抜だけでやられちゃうとチームが出られないよっていう話も出てくるんですが、気にせず、まずはやってみよう。やっていく中で、もし分かれ道があるなら考えるということを意識して、いま関東選抜大会を構想しています。もし兵庫県が大会をやってくれれば、そこには関東選抜大会で勝ったチームを送り込めるようにという準備もさせてもらっています。

いくつかの大会はオフィシャルなかたちで日本連盟が主催してくれるといいと思います。武相高校でフットサルの顧問をやっていて、先日も全国大会出場とホームページに載せてもらいましたが、実際のところ学校としては、生徒が頑張って出場した全国規模の大会ということであれば、日本連盟主催でもサロン 2002 主催でも、全国大会と認識してくれます。一方で、高体連じゃないよねっていうことは、やはり学校だと言われます。でもこれって、JFA の全日本ユースでも、高体連じゃないでしょと、実は言われます。つまり学校にしてみたら、高体連とそれ以外、ぐらいにしか思ってないところもあります。であれば、子どもたちが目標を持ち、日本中から集まってきて、魅力ある大会が実施できればよいということです。関東の U-18 チャンピオンズカップも関東の選抜大会も、子どもたちにとって魅力ある大会、フットサルを続けていく足がかりになるような大会として開催できればと考えます。各地域でもやってもらえるといいかなと思っています。

地域連盟の中にユース担当が存在しないので、まずは部門の設立もすごく大事です。あとは、目標が増えていく、クラブや活動がどんどん増えていくといいんじゃないか。フットサルはいま、かなり苦しい状況にあると思っています。武相高校フットサル部も、20 年目にして、今年度の部員は 8 名。新入生が 8 名入ってくれたので 16 名なんですけど、8 人中 2 人が初心者です。全日本 U-18 選手権が今週の土日にありますが、ほぼ 6 人で戦います。30 分のプレーイングタイムを 4 試合。2 日間で 6 人。戦えるのかなと思ってます。いま 6 人中 6 人がけがしています。フットサルは、波で言うなら 2007 年から 11 年くらいにかけてすごく人気が高まりましたが、最近 10 年間で人気度が下がっています。武相に入っても、フットサルってあるんですね、はじめてやりましたっていう子もいるんです。一方で、半分の子は U-15 上がりで、武相高校にフットサル部があるとわかって来てくれている。

まとまりがなくなってしまいましたが、日本連盟の会議でも、まずはカップ戦から、それをいかにリーグに繋げていくか。あとはフットサル専門チームが増えていくかどうか。北海道だと、ほとんどが両方やっているところが多いからこそ、このリーグの難しさがあると思います。両方やるチームが

少ない地域だったら、フットサル専門チームが中心になって、そこにサッカー部も参加できるという形作りが、一つのモデルになるかもしれません。

本多：ありがとうございました。神戸の選抜大会は 3 月 18、19、20 日に予定しています。担当理事の迫田さんと準備してお待ちしておりますので、よろしくお願いします。時間も迫っておりますが、中塚先生、もう一度お願いします。

中塚：貴重な情報を、全国各地からどうもありがとうございました。

皆さんとは昔から顔なじみの人が多いんですが、そういう歴史があったのかということを改めて知るよい機会になりました。なんといっても東京都板橋区の自宅で、北海道から熊本の話を聞けるこの時代、これが素晴らしいなと思います。

本当はもっと多くの皆さんからコメントを頂きたいところですが、9 時半で一旦締めて、あとのオンライン懇親会でざっくばらんなお話を伺いたいと思います。

いろんな話を聞いての私自身の感想は、一概には言えないんですが、本当に地域固有の課題がたくさんあるなということです。

リーグを考えるとき、やはり行動範囲は大事な要素としてあると思うんです。北海道っていうとめちゃくちゃ広いですよね。チャリンコで行けるわけないし。だけど、例えば札幌とか旭川とか、人口がある程度集まっているところであれば、似たような子たちを集めることはたぶんできるだろうという気がします。地域をどう捉えるか。これは生活圏とセットですね。それぞれの都道府県の交通網の発達の度合いなども合わせて考えないといかんのだろうなあっていうのが一つです。

それからやはり、みんなフットサルに関わる人だからフットサルの環境整備に邁進されるわけですが、これはサッカーリーグを整備していた時と同じで、整備すればするほど混み合うんです。そしてサッカーの中で完結してしまいます。本当はサッカーもやりたい、バスケットもやりたい、バレーもやりたいふつうの子が、バレーボールでもリーグ戦、バスケでもリーグ戦、そこで異動ができないとなると取り合いになるわけです。本当はそうじゃなくて、いろんなスポーツに関われるような、子どもたちが選択できるような環境を、先駆的にやっていけたらと思います。どうしてもチャンピオンを目指す方向に向かいがち、一つのことにこだわらず、やりたいことをやりたいレベルで選択できる環境を整えることも大事ではないかと、そんなことも感じました。

最後に、これは本多さんともよく言っていることですが、正月のリーグチャンピオンズカップは、NPO サロン 2002 が主催させてもらっています。本来は協会や連盟がやるべきことだろうと思います。けど、協会や連盟が主催するまでにはもうちょっと時間かかるだろうと。やっぱり各都道府県とか、少なくとも 9 地域のそれぞれにユースリーグがあるのであれば協会や連盟の主催になると思うけど、まだその前段です。だから我々、スポーツを通してのゆたかなくらしづくりを志に掲げる NPO が、細々と、手弁当ではありますが、やらせてもらっております。もしかするとその方が、かゆいところに手が届く、良い大会になっていくかもしれません。

ここ数年、千曲市でやらせてもらっているので、千曲市ともっともっと関わりを持ちながら、千曲市の人々も巻き込んだシンポジウムが今年度できないかなと検討中です。千曲市のおじさんやおばさんたちが関わってくれているのはこういう大会なんだよ、というのをやりたいなと考えています。またご意見頂ければ。いつでもお寄せください。

ということで、指定発言者以外からは質問の時間もとれませんでしたが、一旦これにて終了とさせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

本多：いまチャットの方で、グリーンアリーナ神戸カップについて荒川さんからご質問を頂いています。私からも皆さんにお伝えしたいところでした。8 月 9 日から 11 日です。移動にも、お盆料金がかかるようなタイミングかもしれません。2019 年にやった日程で、1 日目に女子を 1 日だけやり、男子については 3 日間出場、あるいは 2 日間出場を受け入れますという形です。できれば今週中に募集開始、要項発表したいなと思っています。

（続きはオンライン懇親会）